

はじめに

上毛町は福岡県の最も東にあり、一級河川山国川を介して大分県中津市と接しています。古代には山国川流域が一つの文化圏を形成していたことを反映し、町内に友枝瓦窯跡、穴ヶ葉山古墳、大ノ瀬官衙遺跡、唐原山城跡という4件の国指定史跡をはじめ、松尾山のお田植祭や護摩壇など修験道に関連する文化財が県指定となっているほか、多くの文化財が分布いたしております。

本町では合併後の平成19年3月に第1次総合計画を策定しました。「みんなでひらく上毛の未来」を将来目標とし、小さい町といえども光り輝き、町民が自信を持ち、誇りに思えるまちづくりの推進を目指しているところであります。

一方、合併により行政改革を基本とした効率的な施策を推進する中で、協働生活の営みが疎外されることのないよう、身近な生活の舞台である地域とそこで生活する人々を対象にした「上毛町コミュニティ計画」を平成20年3月に策定しました。コミュニティ計画策定にあたり、町民と行政が一緒になって開催したワークショップでは、参加者から町内に残る各種の文化財が町の貴重な資源であることや、地域の個性を形づくっていることなど様々な意見が出されました。

コミュニティ計画並びに施策の経緯に基づき、このたび「上毛の宝を活用し、おもてなしの心で交流の輪を広げます」を基本理念とした「上毛町文化財活用まちづくり計画」を策定しました。町に残る自然、歴史、文化等の資源を活かして地域活動やコミュニティ活動の充実を図り、観光客の受け入れに住民が携わるなど、多様な視点から交流活動を推進し、地域間交流、更には都市との交流を目指すものであります。

この計画が、新しい時代のまちづくりの一助として町民に広く理解され、さまざまな場面での町民議論や町民活動を通して、町民の力がみなぎる歴史文化と誇りあふれるまちが実現していくことを期待する次第であります。

結びに、計画の策定にあたり、真剣且つ熱心なご議論をいただきました計画策定委員をはじめ、さまざまな意見を寄せていただいたまちづくり活動団体の皆様に心からお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成24年3月

上毛町長 鶴田 忠良

目 次

序	1
(1) 計画策定の目的	1
(2) 計画の位置づけと役割	1
(3) 計画の対象地域・地区区分	2
(4) 計画策定の流れ	3
(5) 本計画における文化財のとらえ方	5
1. 上毛町の概要	6
(1) 位置及び沿革	6
(2) 自然的環境	7
(3) 社会的環境	9
(4) 歴史的環境	13
2. 上毛町の文化財・地域資源の概要	15
(1) 指定文化財	15
(2) 地域資源	17
(3) 活用が期待される文化財・地域資源	21
(4) 文化財活用まちづくりに向けた課題（展開）	33
3. 上位計画に見るまちづくりの指針	35
(1) 第1次上毛町総合計画	35
(2) 上毛町コミュニティ計画	36
4. 計画の理念と目標	38
(1) 基本理念	38
(2) 基本方針	39
(3) 計画目標の設定	40
5. 個別計画	42
(1) 町の宝を守り、次世代に継承する	42
(2) 町の宝を整備し、活用する	44
(3) 地域活動団体の支援や地域の人材を育成し、おもてなしの心を広げる	45
(4) 交流の輪を広げる	46
6. 推進計画	47
(1) 推進計画の視点	47
(2) 推進方策の検討	51
(3) 推進事業	62
(4) 推進計画のまとめ	71
参考資料	72
(1) 時代別の文化財	72
(2) 上毛町風土記 記事	83
(3) 委員会開催状況	84

序

（１）計画策定の目的

現在、上毛町が主体的に保存措置を講じ、管理を行っている文化財は、指定文化財が中心となっている。それ以外にも町内には隠れた文化財が各地域に点在しているが、町民の日常生活や意識とはかなりの距離があり、決して身近な存在だとはいえない。

一方、地域住民や団体による文化財の保護活動、民俗文化財の保存団体による祭りなどの保存継承活動、文化財を活用して地域のコミュニティづくりを行っている団体など、文化財を取り巻く地域の人々が様々な活動を行っている。これら地域の人々の活動と文化財の保存活用を結びつけるため、地域と行政が連携することが必要である。

地域の資源としての文化財を守り、その思いを伝えるなどの活動を実践することで、町内外に地域の特色ある文化財として周知することができる。また、歴史の中で地域の風土や生活などを反映し、継承されてきた文化財を有効に活用することにより、町民にも身近に感じてもらうことができる。

将来に向けて文化財をまちづくりに活かすため、行政と住民の協働による望ましい保存活用の方針を示すことを目的として、「上毛町文化財活用まちづくり計画」を策定するものである。

（２）計画の位置づけと役割

①位置づけ

本計画は、「第１次上毛町総合計画」（平成19年３月）における４つの基本目標、及びそのもとに定めた施策の方向性に示す、地域文化の継承と文化芸術活動の推進、地域活動・地区コミュニティ活動の充実、観光資源の創出、地域間交流、国際交流の推進などの諸施策について、文化財・地域資源の保存活用の視点から具体化する横断的・総合的な計画であるとともに、「上毛町コミュニティ計画」において定めた、町全体及び各地区が今後実行していくプロジェクトと連携を図りながら、行政と住民の協働による取組みの方策を計画する実践的な計画とするものである。

②役割

本計画は、本町における文化財・地域資源の活用に関し、次のような役割を持つ。

- ・行政と住民が協働して取り組んでいく際の基本的な考え方（理念・目標）を示す。
- ・町が取り組むべき文化財の保護・活用に関する個別計画、当面実施する施策を定める。
- ・文化財の保護・活用を通じた地域活動の今後の展開について指針を示す。

③計画の期間

本計画は、おおむね20年程度の長期目標を定めるとともに、推進事業については、短期・中期の計画を設定する。

(3) 計画の対象地域・地区区分

本計画は、上毛町全域を対象地域とし、必要に応じて旧村の区域による4地区に区分して調査・分析及び計画の策定を行う。また、上毛町のみならず、周辺の旧築上郡内市町、大分県中津市に相当する、古代の上・下三毛郡内を視野に入れた計画を検討する。

■対象地域

上毛町全域

(地区)

- ・南吉富地区
- ・西吉富地区
- ・友枝地区
- ・唐原地区

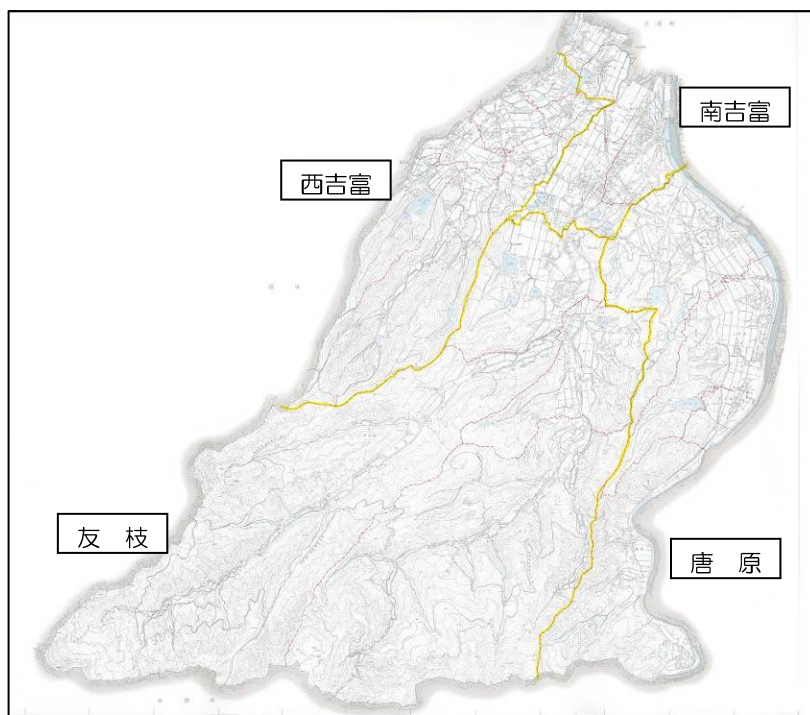


図-1 対象地区区分図

表-1 対象地区概要

地区名	概要
南吉富地区	・石垣と植栽で奥行きを持ってまとめられた住宅まわり、町中に張り巡らされた石積みの水路、そして住宅と近い位置にある畑群、また各神社でみることできた神楽舞台や集落内に点在する古墳や塚。南吉富らしい風景と、そこで営まれる生活を見ることができる。
西吉富地区	・南北に広がり平野部と山間部を併せ持つ地区。緑豊かな山間部から流れ出る豊富な水は水田を潤わせるだけでなく、矢方集落内の水路や矢方池など西吉富地区の至る所で美しい景観を作っている。豊富な水資源により農産物はおいしく、また安心して食べることができるということで地産地消も進んでいる。
友枝地区	・雁股山と大平山・瓦岳を源流とする友枝川と、東友枝川の2つの谷筋と、それらが合流する地域に西友枝・東上・東下・土佐井の4つの集落がある。 ・これらの山々を結ぶ尾根沿いには九州自然歩道が整備されていて、豊かな自然を感じながら散策することができる。
唐原地区	・山国川に沿った細長い形状をしている。 ・北部の下唐原、上唐原は東部に平野が広がり居住者の多い集落となっており南部に行くにしたがい山間部が増えてくる。 ・下唐原集落は中央部に国道 号線が走り、その周辺に電子部品企業の工場や大平楽やふれあいの里をはじめとしたレジャー施設を有しており集客や情報発信を行う拠点となっていける潜在性がある。

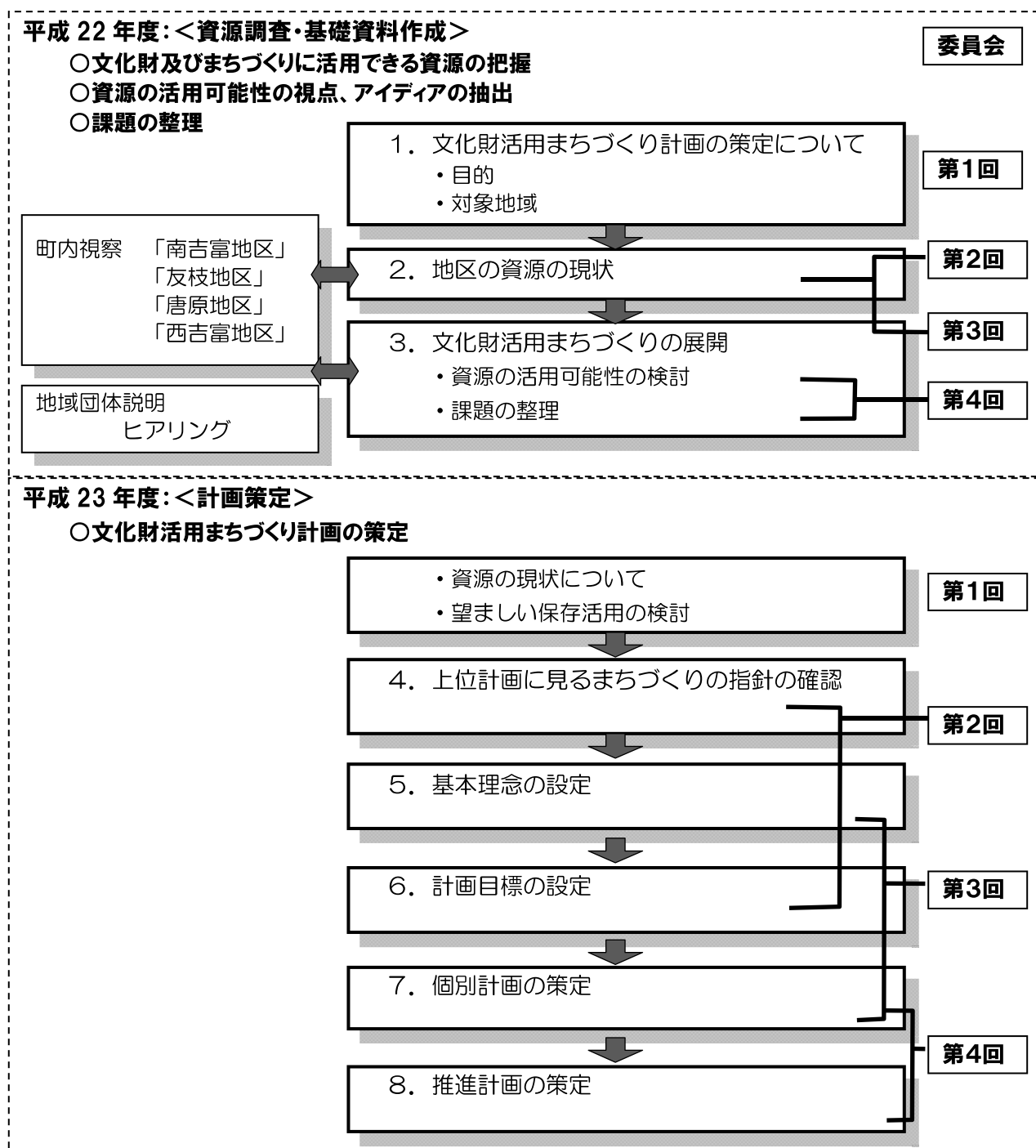
(4) 計画策定の流れ

本計画は2ヵ年計画で実施し、初年度となる平成22年度は各地区の文化財の現状や住民による活用状況を把握するため委員会を4回（南吉富地区・西吉富地区・友枝地区・唐原地区）開催し、現地視察をとおして現状を把握することにより、問題点や課題、地域住民や団体の活動の方向性などの意見を集約し、計画策定のための基礎資料をまとめた。

平成23年度は、平成22年度にまとめた基礎資料をもとに、まちづくりの方向性や将来像などを計画としてまとめるために、委員会を4回開催した。

なお、平成23年度の文化財活用まちづくり計画策定委員会は、第2回、第3回、第4回では学識経験者を構成委員とする1部、及び、地域住民代表を構成委員とする2部に分けて開催した。

■計画策定フロー



■上毛町文化財活用まちづくり計画策定委員会名簿

委 員

(敬称略)

委 員 長	西谷 正	九州歴史資料館長
副委員長	小倉 正五	宇佐市観光協会専務理事
委 員	宮本 工	上毛町文化財保護委員長
委 員	福本 利三	上毛町地域づくり協議会副会長 松会保存会長

事務局

町 長	鶴田 忠良	
教 育 長	百留 隆男	
総合窓口課長	末松 克美	
企画情報課長	尾崎 幸光	
文化財保護係長	末永 浩一	
文化財保護係	佐藤 信	
文化財保護係	塩濱 浩之	

コンサルタント

(株) アーバンデザイン コンサルタント	棚町 修一	
	大杉 哲哉	
	矢舗 雅史	

■委員会開催経緯

H22 年度 (4 回開催)

第 1 回：平成 22 年 12 月 6 日 (月)

1. 文化財活用まちづくり計画の策定について
2. 町内視察 「南吉富地区」
3. 資源の活用可能性について

第 2 回：平成 23 年 1 月 21 日 (金)

1. 町内視察 「友枝地区」
2. 資源の活用可能性について

第 3 回：平成 23 年 2 月 15 日 (火)

1. 町内視察 「唐原地区」
2. 資源の活用可能性について

第 4 回：平成 23 年 3 月 15 日 (日)

1. 町内視察 「西吉富地区」
2. 資源の活用可能性について
3. 課題について

H23 年度 (4 回開催)

第 1 回：平成 23 年 7 月 14 日 (木)

1. 計画策定の進め方について
2. 資源の現状について
3. 望ましい保存活用について

第 2 回：平成 23 年 10 月 4 日 (火) (午前 1 部、午後 2 部を開催)

1. 上位計画に見るまちづくりの指針について
2. 基本理念について
3. 計画目標について

第 3 回：平成 23 年 11 月 15 日 (火) (午前 1 部、午後 2 部を開催)

1. 個別計画について
2. 推進計画について

第 4 回：平成 24 年 2 月 3 日 (金) (午前 1 部、午後 2 部を開催)

1. 推進計画について

(5) 本計画における文化財のとらえ方

本計画では、特に定義分けはせず、地域資源を含む広い意味での「文化財」を今後どのように活かしていくかについて協議をしてきた。

おおむね以下のようなものを「地域の資源」としてとらえ、「文化財」、または「資源」と表記している。

●指定文化財

- ・有形文化財
- ・無形文化財
- ・有形民俗文化財
- ・無形民俗文化財
- ・史跡
- ・天然記念物

など



●指定されていないが地域の歴史を伝える貴重な文化的資源

- ・祭り・伝統芸能
- ・伝承（言い伝え）
- ・建造物
- ・風習
- ・生活文化
- ・郷土料理

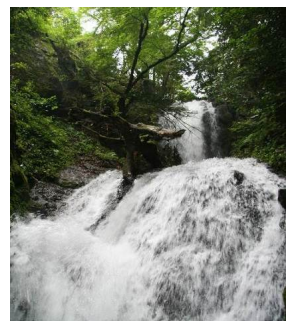
など



●地域資源

- ・自然環境
- ・公園緑地、遊歩道
- ・特産品、産物
- ・景観（田園風景、集落の街並み）
- ・イベント

など



●人、活動団体

- ・上毛町文化と歴史を学ぶ会
- ・吉岡巨石塚保存会
- ・食生活改善推進協議会
- ・絵本製作委員会

など



1. 上毛町の概要

(1) 位置及び沿革

① 位置

上毛町は福岡県の東の端にあつて、西は豊前市、北は吉富町、東及び南は大分県中津市に隣接しており、東経 131 度 10 分、北緯 33 度 34 分に位置する。周防灘に面する京築地域の中で海岸線の無い内陸部に位置している。

県境には、古来より「御木川」や「高瀬川」、「中津川」とよばれていた山国川が流れている。

現在でも、山国川を挟んで隣接する旧下毛郡地域（現在の太分県中津市）とは文化・歴史的に関係が深く、合併後 100 年あまり経った現在でも中津市（旧下毛郡）と経済・文化面などで一体である。



図-2 位置図

② 沿革

本町の歴史は、旧石器時代後期にまでさかのぼる。

古代にはミケ郡であったが、後に山国川を境に上三毛郡と下三毛郡に分けられ、さらに上毛郡・下毛郡となった。

明治22年「緒方村・矢方村・成恒村・安雲村・尻高村・大ノ瀬村・八並村」が合併して「西吉富村」になるなど、この年に「南吉富村」「唐原村」「友枝村」が合併により誕生した。

明治29年には「築城郡」と「上毛郡」が合併して「築上郡」が誕生した。

昭和になると町村合併の機運が高まり、昭和30年「唐原村」と「友枝村」が合併して、両村に跨る大平山から名をとり「大平村」となった。同じ年、「南吉富村」と「西吉富村」が合併して「新吉富村」となった。

平成17年「新吉富村」と「大平村」が合併して「上毛町」が誕生し、今日に至っている。「上毛町」の町名は、旧郡名から名付けられている。

(2) 自然的環境

① 地形

豊前地域の地勢は、耶馬溪溶岩台地が開析されてできた山地が面積の大半を占める。

総面積は、62.4 km²で、地形的には、西を佐井川、東を山国川に挟まれ、南の山間部に向かい、三角形に広がっている。山間部を除いて起伏は少なく、概ねなだらかな田園地帯である。

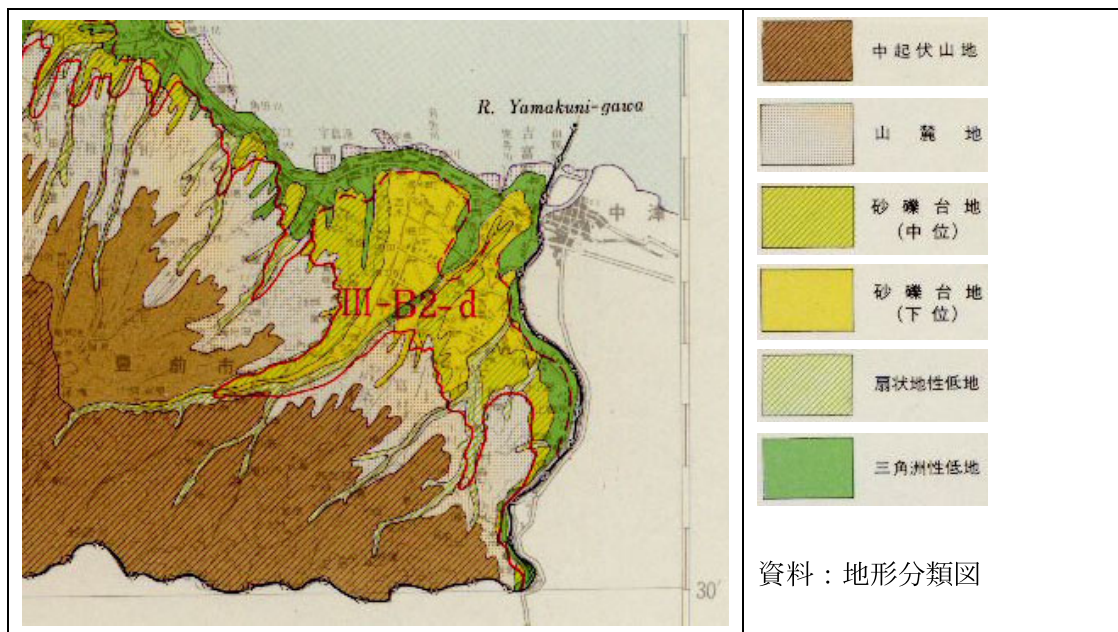


図-3 地形分類図

② 水系

町域の東に山国川、西に佐井川が北流し、周防灘に注ぐ。中央部に友枝川が流れ、これから東友枝川が分かれる。

各河川はいずれも急流で、その上、瀬戸内海気候で雨もやや少ない。主要な水資源は北流する河川に頼っているが、古来、水の確保のために多くの溜池が築造された。

友枝川、東友枝川の上流部では自然環境が残され、ホタルの群生地があり、毎年6月上旬を中心にホタルの乱舞が見られる。

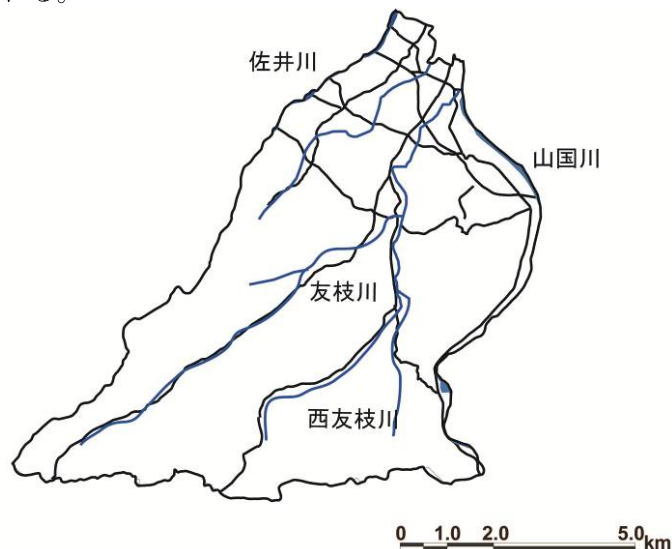


図-4 水系図

③ 植生

山間部は、スギ・ヒノキの植林地が広がり、山麓部はアカマツ林となっている。平地部は水田・雑草群落と住宅地がほとんどである。

春には牛頭天王公園に桜が咲き誇り、夏には降り注ぐ太陽の中に水辺で遊ぶ子ども達の笑い声がこだまする。秋の澄んだ空には黄金色に色づいた水田が美しく映え、岩屋の滝周辺の木々が色づきはじめると上毛町は冬を迎える。

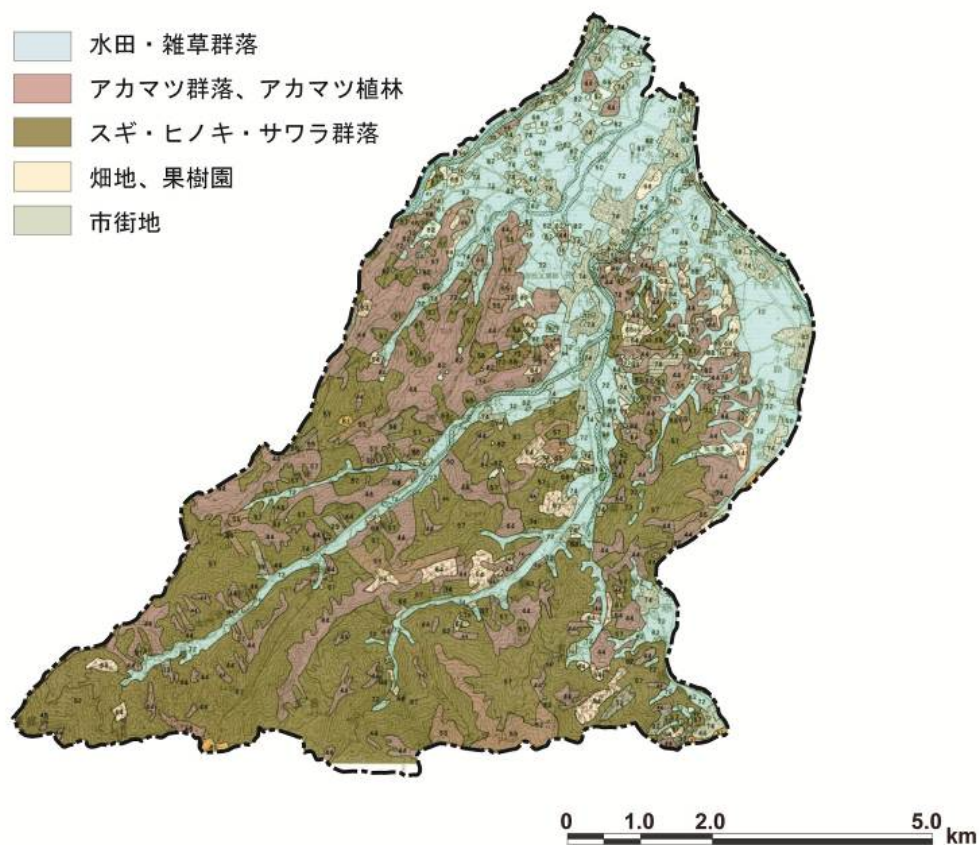


図-5 植生図

④ 景観

本町は、平坦地ののどかな田園風景と山間部の山に囲まれた落ち着いたある農村集落景観が広がっている。山あいでは、地形を生かした棚田などが特徴的な景観を見せている。



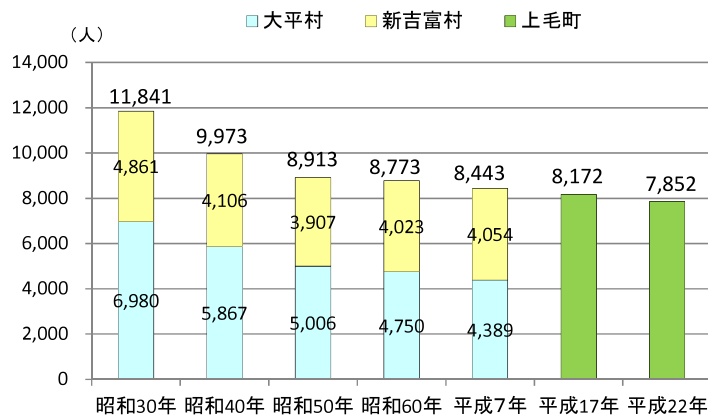
(3) 社会的環境

① 人口と世帯数

1) 人口の推移

平成22年の国勢調査によれば上毛町の人口は7,852人で減少傾向にある。旧2村別では新吉富村が微増傾向に移行したのに対して、大平村は減少傾向が続いている。

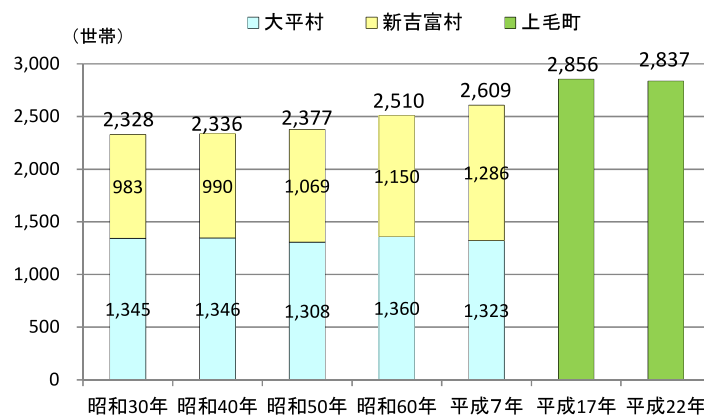
表-2 人口の推移



2) 世帯数の推移

一般世帯数は微増傾向にあり、平成22年の国勢調査では2,837戸となっている。65歳以上の世帯も多く、核家族化の進行がうかがえる。旧大平村は横ばい傾向であるが、旧新吉富村は若干の増加傾向にある。

表-3 世帯数の推移



3) 年少人口と老年人口の推移

総人口が減少している中、年少人口（15歳未満）は平成22年13.2%とほぼ一定の割合を保っているが、平成22年国勢調査での老年人口（65歳以上）割合は30.6%で、過去増加しており、福岡県の老年人口割合22.3%を大きく上回っている。

② 交通

上毛町は、東九州の交通軸上にあり、国道10号が通っている。現在、これに並行して東九州自動車道の整備が進められており、平成28年度末までの供用を目指している。

東九州自動車道は、北九州市を起点として、大分・宮崎・鹿児島の各県を結び、鹿児島市に至る延長436kmの高速道路で、このうち、椎田南IC（仮称）～宇佐JCT（仮称）間は、約28.3km、既に供用中の一般有料道路椎田道路と一般有料道路宇佐別府道路に直結し、北九州市と大分市を結ぶ主要アクセスルートとして重要な役割を果たす。町にとって最寄りのインターチェンジは豊前ICとなる。

上毛町域のルートは、佐井川から大池公園を通り山国川に至る約6.4kmで、大池公園の温泉施設「大平楽」南側の丘陵地にはパーキングエリアが計画されている。

町では、利用者の利便性と地域活性化のため、パーキングエリアにSA・PA接続型スマートインターチェンジの設置を計画している。スマートインターチェンジが設置されると北九州都市圏とこの地域を結ぶアクセスポイントとして、利用者の利便性が大幅に向上し、また、地域経済の発展、救急医療の観点からも必要不可欠である。

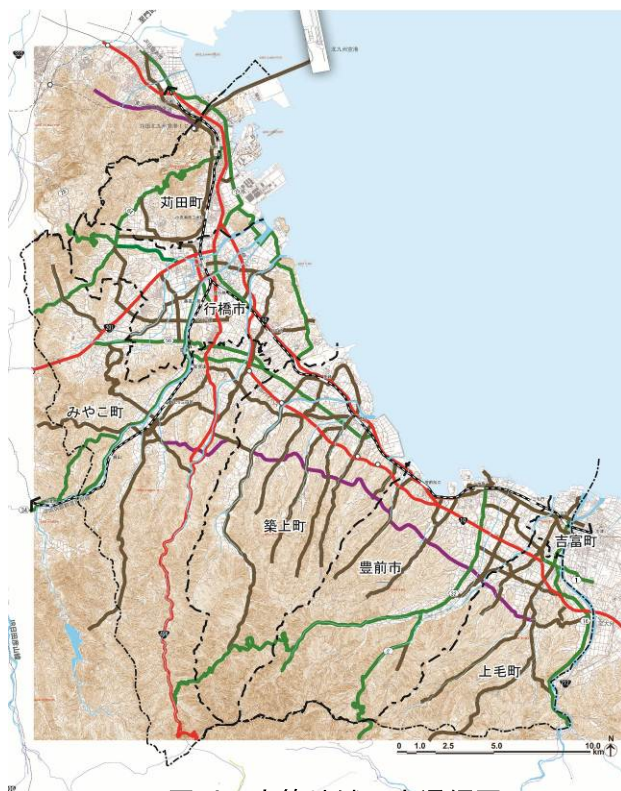


図-6 京築地域の交通網図



図-7 上毛町周辺の道路網図

③ 土地利用

本町の総面積は 62.4 km²で、そのうち、森林が 62.7%を占めている。

表-4 土地利用

単位：km²

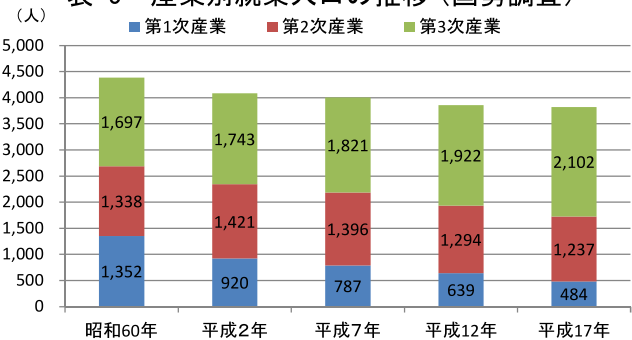
	耕 地	宅 地	森 林	その他	総面積
面積	10.80	2.52	39.11	9.97	62.40
構成比	17.3%	4.0%	62.7%	16.0%	100.0%

④ 産業

1) 産業構造の推移

産業別の就業者比率の推移は第1次産業が昭和60年と比べると半数以下となっており、農林業や畜産業の低下が顕著に見られる。逆に第3次産業は大きく伸びている。なお、第2次産業は平成に入って微減傾向にある。

表-5 産業別就業人口の推移（国勢調査）



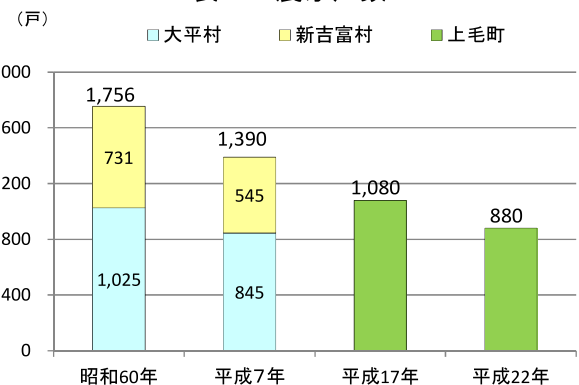
2) 農業

農業従事者、農家数の減少は顕著に現れており、農家数は 880 戸となっている。

また、農家の年齢構成も65歳以上の高齢者の占める割合が増加し農業の高齢化が進んでいる。

農家の減少に伴って農業粗生産額は下向きに推移しており、平成 18 年には 11.5 億円となっている。作物別では普通作物（米麦）の減少が目立つ。

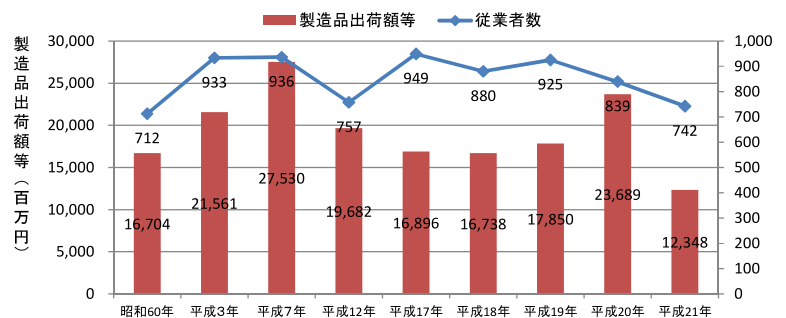
表-6 農家戸数



3) 工業の状況

製造品出荷額は、平成以降増加の一途を辿っていたが、近年は減少傾向となっており、平成 21 年には、123.5 億円となっている。また、常用労働者数も減少している。

表-7 工業の状況（工業統計調査）



4) 商業の状況

事業所数は減少傾向にあるが、常用従業員数は増加傾向にあり 400 人となっている。これは事業所の大型化が要因と考えられる。商業販売額は、平成 19 年には 42.1 億円となっている。

⑤ 公共公益施設

1) 教育施設

小学校4校、中学校1校がある。

2) 文化・福祉・スポーツ・レクリエーション施設

表-8 公共公益施設一覧表

施設名	所在地	施設名	所在地
庁 舎		警察機関	
上毛町役場	上毛町大字垂水 1321-1	豊前警察署垂水駐在所	上毛町大字垂水 329
上毛町大平支所	上毛町大字東下 1512	豊前警察署土佐井駐在所	上毛町大字土佐井 811-1
西吉富出張所	上毛町大字緒方 588-1	豊前警察署唐原駐在所	上毛町大字上唐原 1115-3
唐原出張所	上毛町大字上唐原 1665-1	郵便局	
げんきの杜	上毛町大字ハッ並 143-1	南吉富郵便局	上毛町大字垂水 389
保育所・園		西吉富簡易郵便局	上毛町大字緒方 588-1
上毛町立新吉富保育所	上毛町大字安雲 172	大平郵便局	上毛町大字土佐井 768-1
上毛町立大平保育所	上毛町大字下唐原 2141-1	唐原簡易郵便局	上毛町大字上唐原 1665-1
ポッポ保育園	上毛町大字中村 239-1	福祉・医療施設	
小学校		特別養護老人ホームたいへい苑	上毛町大字西友枝 1938-1
上毛町立西吉富小学校	上毛町大字緒方 598-1	特別養護老人ホーム安雲拓心苑	上毛町大字安雲 585-4
上毛町立南吉富小学校	上毛町大字垂水 1397	デイサービスセンターさざんか荘	上毛町大字西友枝 1938-1
上毛町立唐原小学校	上毛町大字上唐原 1265-1	安雲拓心苑デイサービスセンター	上毛町大字安雲 585-4
上毛町立友枝小学校	上毛町大字東下 1467-1	上毛町在宅介護支援センター大平	上毛町大字西友枝 1938-1
		上毛町在宅介護支援センター新吉	上毛町大字ハッ並 143-1
中学校		上毛クリニック	上毛町大字東下 1584
上毛町立上毛中学校	上毛町大字下唐原 2141-1	その他	
体育施設・文化施設		上毛町社会福祉協議会	上毛町大字ハッ並 143-1
上毛町農業者トレーニングセンター	上毛町大字安雲 852	西吉富コミュニティセンター	上毛町大字緒方 588-1
上毛町健康増進施設	上毛町大字東下 1243-2	唐原コミュニティセンター	上毛町大字上唐原 1665-1
上毛町大池公園多目的運動広場	上毛町大字東下 1272-1	上毛町農産物加工場	上毛町大字下唐原 1666
上毛町立図書館	上毛町大字ハッ並 143-1	道の駅「しんよしとみ遺跡前」	上毛町大字大ノ瀬 304-1
上毛町歴史民俗資料館	上毛町大字安雲 840	さわやか市大平	上毛町大字下唐原 1621
消防機関		湯ノ迫温泉「大平楽」	上毛町大字下唐原 1625
京築広域圏消防本部東部分署	上毛町大字垂水 1315-1	上毛町大池公園ふれあいの里（ログハウス）	上毛町大字下唐原 2335-1
		西友枝体験交流センター「ゆいきらら」	上毛町大字西友枝 1520
		築上東部火葬場	上毛町大字宇野 1236-5

3) 道の駅しんよしとみ遺跡前

国道10号沿いにあり、国指定史跡「大ノ瀬官衙遺跡」が隣接する全国でもめずらしい史跡一体型の道の駅である。地元で生産された米、野菜、果物、大豆を中心とした加工食品などを販売する「物産館」をはじめ、「交流工芸館」や「軽食コーナー」などがある。また広場では、季節に合わせたイベントや展示会等も開催されている。

4) 民間商業施設

○湯の迫温泉 大平楽

檜風呂や洞窟風呂、家族風呂など趣向を凝らした風呂を多数備える温泉総合レジャーランド。レストランや売店もある。直売所「さわやか市大平」がある他、陶芸教室が併設されている。

(4) 歴史的環境

本町の歴史的変遷の概要を整理する。

① 歴史変遷

1) 原始～古代

○縄文～古墳

町内には、東友枝曾根遺跡（縄文後期）や唐原環濠集落（弥生後期）のように、縄文時代から弥生時代にかけて、多くの遺跡が確認されている。古墳時代（およそ1700年前）になると大和朝廷が力を持つようになり、全国に巨大な前方後円墳が造られるようになった。町内の下唐原に能満寺古墳・西方古墳という前方後円墳が造られた。

○窯跡

大平楽付近では古墳に供える埴輪を焼いた窯跡も確認されている。ここで焼いた埴輪には円筒埴輪や家形埴輪がある。

○群集墳・横穴墓

古墳時代終わり頃（およそ1400年前）になると、群集墳という直径10m前後の小型の古墳（町内では、岩木山・雄熊山・穴ヶ葉山などにある）や岩盤に横穴を掘り、それを墓とする横穴墓が造られた（町内では百留・下唐原・尻高地区などにある）。特に百留横穴墓群（現在49基が確認されている）には赤色顔料で装飾した横穴墓もある。

同時期には円墳の山田古墳や石室内に木の葉・魚・鳥の線刻の絵が描かれた円墳の「国指定史跡 穴ヶ葉山古墳」が造られた。調査では、古墳の周りに山陰（今の島根県や鳥取県）系の子持壺という土器を供えていたことがわかっている。

○古代の山城

古墳時代終わりから天皇中心の中央集権的な国家体制を整えていく時代（およそ1350年前）になると日本列島は朝鮮半島や中国大陸と一時的に緊張関係を持つ。この時期、戦いに備えるため、北部九州～瀬戸内海に造られた古代の山城の一つが「国指定史跡唐原山城跡」である。

○大ノ瀬官衙跡

天皇を中心とする国づくりの方法には、地方に役人を置き、国を治めるためのしくみとして、今の県・市町村のような、国・郡・里（後に郷）の体制がしかれていた。町内には大字大ノ瀬に上毛郡の郡役所跡と考えられる「国指定史跡大ノ瀬官衙遺跡」がある。遺跡の調査では、当時使用したと考えられる硯の一部が出土している。

○廃寺と瓦窯跡

朝鮮半島から伝えられた仏教が広まると、奈良時代のはじめ（今から1300年前）には、数多くのお寺が造られ、町内にも大字垂水に寺院が造られた。そして、この寺に葺く瓦を作るために、「国指定史跡 友枝瓦窯跡」が造られた。大字安雲の山田古墳周辺にある照日遺跡では、瓦を焼いた窯跡とともに古墳時代から広く使われていた須恵器を焼いた窯跡も確認されている。

2) 中世～近世

○修験道遺跡

平安時代の終わり頃から、松尾山にあった医王寺では修験道が盛んに行なわれるようになった。室町時代中頃（今からおよそ 500 年前）になると、松尾山医王寺を本山として、本山と深い関係をもつ13の末寺が決められ、八面山や檜原山の山伏たちとともに峰入修行を行なうようになった（町内にある機留観音堂・矢方毘沙門堂・緒方観音堂は 13 末寺であった）。

○中世の山城

戦国時代になると戦に松尾山も巻き込まれ焼き討ちにあうこともあった。多くの戦いの中で町内にも多くの山城（雁股城・尻高城・成恒城・緒方城など）が造られた。

豊臣秀吉から徳川家康へと天下統一がなされる時代（およそ 400 年前）には山の上でなく平地に大名の城が造られるようになった。この時期に古代に造られた「唐原山城跡」の列石も壊され、中津城築城の際に石垣として使われた。江戸時代になると、松尾山は小倉藩の祈願所となり活動が盛んになった。

○江戸時代の溜池、のろし台

米作りに必要な溜池の一つ「大ノ瀬池」が、寛文 2 (1662) 年に造られている。

江戸時代終わり頃（今からおよそ 200 年前）になると、外国との交易を制限する鎖国政策をとっていた幕府は、頻繁に来航する外国船を警戒するようになった。そのため、立ち上る烽火で緊急事態を知らせる烽火台が沿岸部を中心に造られた。中津藩も緊急時に備えて、大字吉岡の他、宇佐市や中津市に烽火台を造った。

3) 近代～現代

○神仏判然令

明治時代になると、政府は「神仏判然令」を出すとともに、修験道も禁止した。そのため、松尾山の医王寺は神道に転換し、そこにあった「木造薬師如来坐像」や「輪蔵」は後に覚円寺に安置されるようになった。

○明治の合併

明治政府は、国づくりとして、新しい市町村や府県・郡制度を作った。明治22年「緒方村・矢方村・成恒村・安雲村・尻高村・大ノ瀬村・八並村」が合併して「西吉富村」になるなど、この年に「南吉富村」「唐原村」「友枝村」が合併により誕生した。

明治 29 年には「築城郡」と「上毛郡」が合併して「築上郡」が誕生した。

○宇島鉄道

明治が過ぎ、大正になると、町内に軽便鉄道の「宇島鉄道」が作られ、大正 3 (1914) 年から昭和 11 (1936) 年の間、宇島～有野間を結ぶ鉄道として活躍した。

駅には、宇島駅～千束～塔田～黒土～広瀬橋～安雲～光林寺（臨時駅）～友枝～下唐原～中唐原～上唐原～百留～原井～耶馬溪（有野）駅があった。

参考資料「上毛町文化財ガイドブック」

2. 上毛町の文化財・地域資源の概要

(1) 指定文化財

① 有形文化財

建造物や美術工芸品などの有形の文化的所産を意味する。遺跡、建築、絵画、彫刻、工芸品、書籍、典籍、古文書その他で、歴史上または芸術上価値の高いものや、考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料を、「有形文化財」と定義している。

上毛町の有形文化財として、県指定有形文化財が1件ある。

② 無形文化財

演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で、歴史上または芸術上価値の高いものを「無形文化財」と定義している。無形文化財は芸能や工芸技術などのように演技や制作技術など、特定の個人や集団が相伝し、体得している無形の「技（わざ）」そのものをさしている。

③ 民俗文化財

民俗文化財とは衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋、その他の物件など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきた有形・無形の伝承で、人々の生活の推移を示すものである。

上毛町の民俗文化財として、県指定有形民俗文化財4件、県指定無形民俗文化財1件、町指定有形民俗文化財5件が指定されている。

④ 埋蔵文化財

埋蔵文化財とは、土地に埋蔵されている文化財（主に遺跡や遺物）である。

上毛町内には数多くの埋蔵文化財がある。

⑤ 記念物

記念物とは以下の文化財の総称である。

- 1 貝塚、古墳、都城跡、城跡旧宅等の遺跡で、歴史上または学術上価値の高いもの
- 2 庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳等の名勝地で、芸術上または鑑賞上価値の高いもの
- 3 動物、植物及び地質鉱物で、学術上価値の高いもの

国・県・市町村は、これらの記念物のうち重要なものをこの種類に従って、「史跡」「名勝」「天然記念物」に指定し、これらの保護を図っている。国の指定を受けたもので特に重要なものについては、それぞれ「特別史跡」「特別名勝」「特別天然記念物」に指定している。

上毛町には、国指定史跡4件、町指定天然記念物2件がある。

⑥ 文化的景観

文化的景観とは、地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で、国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないものである。

上毛町内には、文化的景観として指定されたものはないが、それに類するものとして西友枝地区の棚田景観などがある。

■町内指定文化財一覧

表-9 国指定文化財

指定種別	指定名称	指定年月日	所在地	備考
史跡	穴ヶ葉山古墳	昭和 14 年 9 月 7 日	上毛町大字下唐原 2156 外	
	友枝瓦窯跡	大正 11 年 10 月 12 日	上毛町大字土佐井 1696-2	
	大ノ瀬官衙遺跡	平成 10 年 12 月 8 日	上毛町大字大ノ瀬 284-3 外	
	唐原山城跡	平成 17 年 3 月 2 日	上毛町大字土佐井・下唐原・宇野	
	合計 4 件			

表-10 県指定文化財

指定種別	指定名称	指定年月日	所在地	備考
無形民俗文化財	松尾山のお田植祭	昭和 51 年 4 月 24 日	上毛町大字西友枝	松尾山三社神社 松会保存会
有形民俗文化財	木造薬師如来坐像	昭和 44 年 5 月 1 日	上毛町大字尻高 1293	覚円寺 1 軀
	輪蔵附護符等張紙	昭和 44 年 5 月 1 日	上毛町大字尻高 1293	覚円寺 1 基
	護摩壇	昭和 46 年 2 月 18 日	上毛町大字西友枝	松尾山三社神社 1 基
	修験板笈	昭和 46 年 2 月 18 日	上毛町大字安雲 840	上毛町歴史民俗資料館 2 架
有形文化財 (考古資料)	原井三ツ江遺跡	平成 17 年 2 月 23 日	上毛町大字東下 1512	上毛町教育委員会
	出土品一括			
	合計 6 件			

表-11 町指定文化財

指定	種別	指定名称	指定年月日	所在地	備考
美術 工芸品	彫刻	岩屋の薬師如来立像	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字東上	岩屋薬師堂
	彫刻	原井の菩薩立像・懸仏	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字原井	岩屋堂(観音堂)
	彫刻	土佐井の観音菩薩坐像	昭和 55 年 1 月 30 日	上毛町大字土佐井	土佐井観音堂
	彫刻	矢方毘沙門天立像	昭和 55 年 4 月 1 日	上毛町大字矢方 478	矢方区
	彫刻	日熊観音	平成 14 年 3 月 1 日	上毛町大字大ノ瀬	日熊観音講中
	書	天満宮文書・古裂	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字上唐原	
	書	大般若波羅密多經卷	昭和 55 年 1 月 30 日	上毛町大字安雲 840	上毛町歴史民俗資料館
	考古	銅製経筒・経巻・合子身	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字安雲 840	上毛町歴史民俗資料館
史跡		百留横穴墓群	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字百留	
		唐原焼窯跡	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字下唐原	
		有野の弘法窟	昭和 55 年 1 月 30 日	上毛町大字有野	
		山田古墳(1・2 号墳)	昭和 55 年 4 月 1 日	上毛町大字安雲 585-19	安雲東区
		宇野古墳(1 号墳)	昭和 55 年 4 月 1 日	上毛町大字宇野 473-4	個人
		吉岡巨石塚	昭和 55 年 4 月 1 日	上毛町大字吉岡 180	個人
天然記念物		土佐井の大樟	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字土佐井	土佐井貴船神社
		バクチの木	昭和 55 年 4 月 1 日	上毛町大字垂水 302	自生
有形民俗文化財		上唐原の宝塔	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字上唐原	
		松尾山の宝塔	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字西友枝	
		野間の宝塔	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字東下	
		真正寺の石塔群	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字原井	
		梶屋の板碑	昭和 49 年 11 月 25 日	上毛町大字上唐原	
		合計 21 件			

資料：上毛町文化財ガイドブック

(2) 地域資源

上毛町の魅力をかたちづくっている地域資源として、自然資源、公園、祭り・民俗芸能、特産物・伝統的な食事などについて概要を示す。

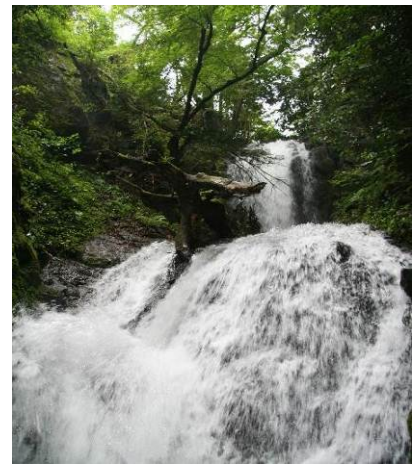
① 自然資源

上毛町には山国川や友枝川をはじめとする河川、山林、里山が調和する素晴らしい自然環境や景観が数多く残されている。

○岩屋の滝

大字東上の岩屋地区にあり、水中に住み雨を呼ぶ魔力を持つと信じられている龍王を祀った滝である。岩屋の滝にはお参りしたら雨が降るといいうい伝えがあり、旱魃の際には蛇淵参りといって雨乞いが行われていた。

3月下旬から4月にかけては満開の桜を楽しめ、夏は涼を求め、周りの自然は桜、新緑、紅葉など四季を通じて様々な変化を楽しめる。



○中造の滝

上毛町に存在する3つの滝の一つ。

○おとろしの滝

上毛町に存在する3つの滝の一つ。

○上毛のホタル群生地

地元の方々の河川環境保全の努力により、毎年6月上旬を中心に友枝川、東友枝川、松尾川の上流では森全体がクリスマスツリーのように輝くホタルの乱舞が見られる。



図-8 ホタルマップ

② 公園

○ほたるの里

東上地区と西友枝地区では、5月下旬から6月中旬にかけて川のせせらぎを聞きながら、ホタルを楽しむことができる。都会では味わえない感動を与えてくれる。



○岩屋の滝桜公園

平成3年春に旧大平村の地域おこし事業にて区民一同の手作りでできた公園。八重桜、吉野桜のトンネルが楽しめる。



○牛頭天王公園

大分県中津市街地を一望できるなだらかな丘の上にある公園。春には「さくら祭」が開催され、公園内のぼんぼりが灯り、夜桜も楽しむことができる。そのほか、青々とした芝生、水辺で遊べる公園などがあり、多くの方から親しまれている。

園内には児童遊園、水辺公園、弥生時代の復元高床式建物などがある。



○友枝川農村公園

友枝川農村公園周辺において、町内外の人が四季を通じて楽しめるように、桜・アジサイなど四季折々の花の植栽や水辺環境を整備する「友枝川ふれあいの里づくり」が進められている。



○大池公園ふれあいの里

本格的な丸太組ログハウスの宿泊施設をはじめ、多目的広場や芝生公園、遊歩道など池での釣りやアスレチックなど自然を満喫することができる施設となっている。



○耶馬日田英彦山国定公園

九州の北東部、大分・福岡・熊本3県にまたがる、わが国最初の国定公園で、1950年（昭和25）指定された。溶岩台地と多くの溪谷からなる耶馬溪、台地上に発達したメーサで修験道場として有名な英彦山、水郷風景の日田市地区が主要部である。

○九州自然歩道

耶馬日田英彦山国定公園の中を歩くことができる、豊前市を起点とする総延長34.7kmの自然歩道（宮元～英彦山～犬ヶ岳～経読岳～雁股山～大平山）。

町内は、西友枝の雁股山から東上の大平山までの約10km。標高500mから800mの景色は絶景。

途中の見どころは、英彦山で現存する最大の社殿である英彦山神宮奉幣殿や、修験道場の求菩提山、春のツクシシヤクナゲや秋の紅葉が美しい犬ヶ岳などがある。

歩道は整備され歩きやすくなっている。



③ 祭り・伝統芸能

1) 修験道の祭

○松尾山のお田植祭

修験道最大の祭である「松会行事」のうち「田行事」が継承されたものである。

神前で稲作の一連の所作を行い、五穀豊穰を祈る行事である。

現在は、天下泰平を祈る勇壮な鉾舞や長刀舞などの刀行事が復興されており、毎年4月19日直前の日曜日に開催される。

(昭和51年4月24日 福岡県指定無形民俗文化財)



2) 神楽

○成恒神楽

舞い手不足により中断期間があったが、地元の若者たちが復活した。若さと勢いと力強さのある舞が特徴。

神社への奉納の他、各種イベント、福祉施設、保育園や学校など近隣以外でも舞いを披露。子ども神楽を結成し、保存・育成に努めている。

○唐原神楽

伸びのあるとても優雅なお囃子と、力強くきれのある舞が特徴。神社への奉納の他、各種イベント、福祉施設、保育園や学校などの依頼があれば近隣以外でも舞を披露している。子ども神楽を結成し、保存・育成に努めている。



○友枝神楽

演目の中でも特に優しいお囃子、お姫様二人の優雅な「御子舞」が特徴。

神社への奉納の他、各種イベント、福祉施設、保育園や学校などの依頼があれば近隣以外でも舞を披露している。子ども神楽を結成し、保存・育成に努めている。



3) 祭り

○上毛祭り（大ノ瀬官衙遺跡）

松尾山のお田植祭りの披露、米俵をリヤカーで引いてタイムやパフォーマンスを競う台車レースなど。

○とべら祭り（八坂神社）

7月7日に八坂神社の境内ではとべらの枝が売り買いされる。このとべらの木の枝を持ち帰り、門の戸に挿せば疫病の災いを避けることができると今に伝えられている。

○「さくら祭り」（牛頭天王公園）

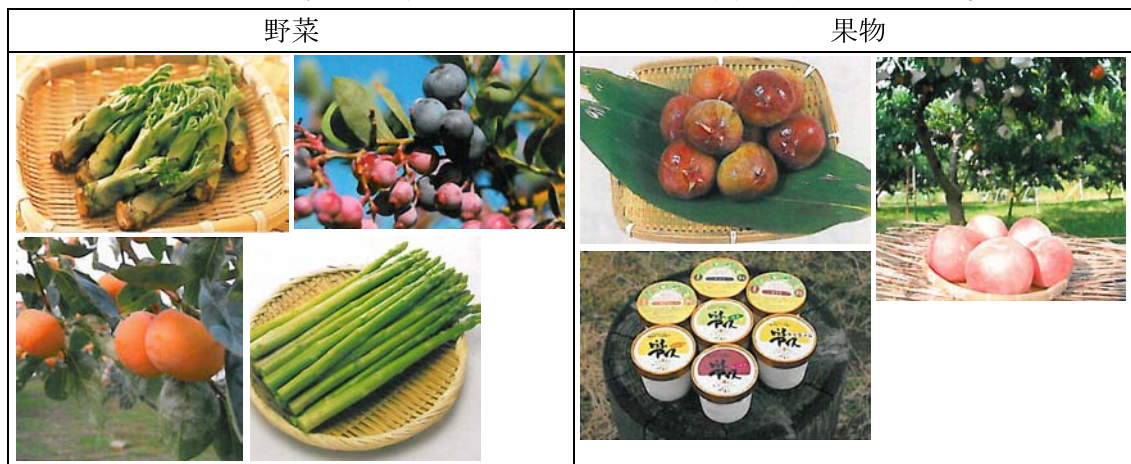
中津市が一望できるなだらかな丘陵地にたくさんの花が咲き、花見を楽しむことができる。桜の時期には夜はぼんぼりに灯りがとまり、夜桜が楽しめる。

④ 特産物・伝統的な食事

1) 上毛町の特産品

農産物として、キャベツ、レタス、たまねぎ、ほうれんそうなどの野菜、柿、はっさく、梅、みかん、桃、す桃などの果物を生産している。

豊かな自然の中で栽培された農林産物や加工品を直売所等で販売している。



2) 上毛町の郷土食（食文化）

上毛町では、平成20年9月に制定した「上毛町食育のまちづくり条例」に基づき、地域資源である豊かな食を活かしたまちづくりに取り組む中で、まちの発展を担う人材の育成（人づくり）を基本理念に掲げ、食育の推進に力を注いでいる。

この中で、郷土料理や地域の食材を次世代に継承していくことを目指している。

上毛町食育のまちづくり推進計画（平成21年12月）より

上毛町は山里の自然に恵まれた食材をいかした煮ぐい、かしわめし、団子汁、猪鍋などの郷土料理が生まれ、漬け物、ようかん、柚子ごしょうなどの保存食も受け継がれている。

しかし、海外からの様々な食材が満ちあふれている現在、先人によって培われてきた多様な伝統食文化を継承していく機会がなければ次第に失われていく。

このため、上毛町の郷土料理の継承や食事作法の啓発を行っていきます。

（Ⅳ 具体的な施策の展開）郷土料理・地域の食材の伝承

地域で活動している食育ボランティア、食生活推進協議会等による親と子の料理教室や男性料理教室等において郷土料理や行事食に取り組み、上毛町の味の伝承に努めます。また、食育に関する様々なイベント等で上毛の味を紹介していきます。



団子汁



煮ぐい

(3) 活用が期待される文化財・地域資源

上毛町文化財活用まちづくり計画策定委員会は、平成22年度に町内文化財の現地視察を行うとともに、資源活用の可能性についての検討を行った。

ここでは、文化財のまちづくりへの活用を展開していく上での視点を設定し、資源活用の検討内容を整理する。

① 文化財のまちづくりへの活用を展開していく上での資源の整理

これまで見てきたように、上毛町の文化財や地域資源は、次のような特色を有している。

■上毛町の文化財や地域資源の特徴

- 古墳、中世の山城、修験道関連の遺跡や近代化遺産など、各時代の文化財がある。
- 国指定史跡が4件ある。特に、古代のミケ郡の中心であったことを示す遺跡が、人口約8千人の小規模な町に存在することは、特筆すべきものである。
- 修験道関連など様々な縁起やいわれがあり、祭礼が行なわれる神社、寺院が多くある。
- 町内の文化財、祭礼、習俗の多くは、修験道と深く関わっている。
- 各地区の神社では、神楽講によって引き継がれる「神楽」が奉納されている。
- 文化財は、周辺の田園・自然景観と一体となって残されている。
- 清流のホタル、滝、四季の花など自然環境資源、農産物など豊かな地域資源がある。
- これらの文化財や地域資源を大切に守り、伝えていこうとする地域団体が数多く活動している。

これらの資源をまちづくりに活用していく上でのあり方を検討するため、保存活用の視点により資源を再整理する。

資源の保存活用の視点は、次のように分類する。

- 「地域団体による活動」
- 「保存・整備・管理が必要な資源」
- 「修験道に関わる資源」
- 「祭りとして活用されている資源」
- 「イベントとして活用されている資源」
- 「景観として魅力的な資源」

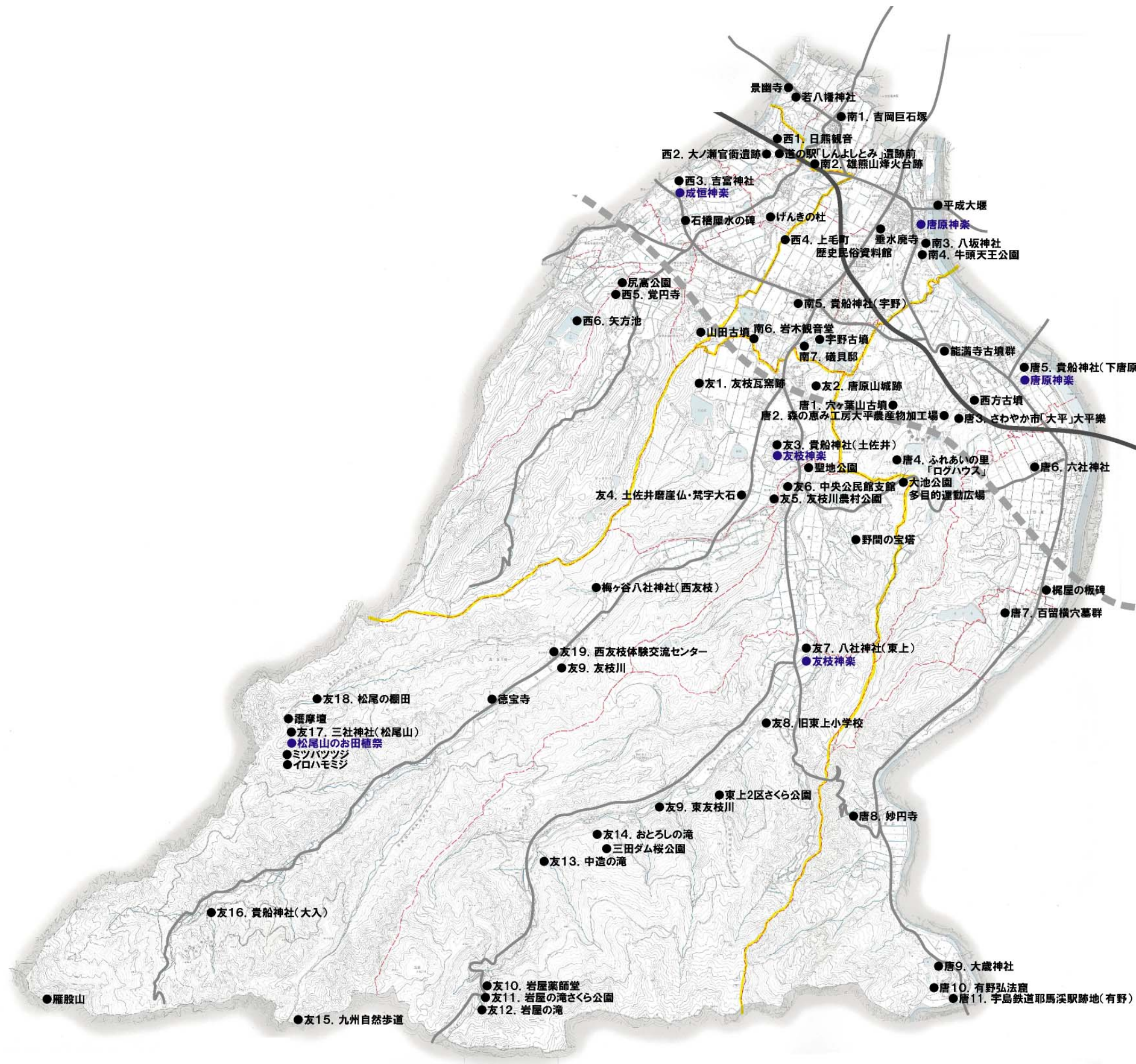


図-9 文化財・地域資源の位置図

表-12 地域団体による活動






資源		資源の概要		資源を活かした地域活動・祭り										備考
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者				
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外	
南 1	吉岡巨石塚		花崗岩で造られた高さ約4 m、奥行き約7 m、幅約5 mの横穴式石室を有する円墳で、7世紀頃に作られたと考えられる。 町指定文化財	・地域の学童の歴史教材 ・地域で手作りチラシ作成・配布 ・見学ツアー					吉岡巨石塚保存会	○	○	○		
南 2	雄熊山 烽火台跡		雄熊山の山頂に築かれた烽火台の焚口部と見られる石組みがある。 1809 年五代目中津藩主奥平昌高が領内三箇所に設けたうちのひとつと考えられている。 中津方面への眺望が広がる。	・地域で草刈、山の手入れ ・小学生の遠足地として活用 ・眺望がよく、中津市街が一望					吉岡巨石塚保存会	○	○			
南 7	礒貝邸		赤穂義士礒貝十郎左衛門正久の末裔、9代目の礒貝良洋氏宅家系図や代々引き継がれて来た貴重な遺品などある。 12 月の討ち入りの頃に様々な逸話や遺品などの公開がある。	2009 年 2 月 4 日には、「上毛町文化と歴史を学ぶ会」主催の演題『赤穂義士礒貝十郎左衛門正久』の講演会が開催された。				●	上毛町文化と歴史を学ぶ会	○	○	○		
友 9	東友枝川 友枝川		毎年、5 月下旬～6 月上旬になると、ほたるの乱舞を見ることができる。 「ほたるの里」			● 蛍			西友枝ニコニコ会 （友枝川の美しい川の保全のため、草刈や花の植栽活動を行っている）	○	○	○	○	ホタルの保護活動の人と見学者の交流がない。

表-13 保存・整備・管理が必要な資源①

資源		資源の概要												備考	
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者					
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外		
西 1	日熊観音		1240 年、鎌倉時代に日熊小次郎直久が日熊城主になった際に、日熊一族の守り観音として建立したと伝えられる。内部には、十一面観世音菩薩像が収められており、現在も周辺地区の人々の守護観音として大切にされている。	・のぼり ・地元で花作り ・火除けや安産・子授けに霊験ありとされ、遠方より参詣							○	○	○		道路の新設により、アクセスしやすい反面、盗難等の危険性が高まる。
西 4	上毛町 歴史民俗資料館		郷土の歴史、民俗に関する資料を保存している。								○	○	○	○	
友 1	友枝瓦窯跡		奈良時代に建立された垂水廃寺へ瓦を供給するために造られた地下式の有階有段登窯（ゆうかいゆうだんのぼりがま）。内部には瓦を置くために階段状の段が17段設置されている。朝鮮半島の百済系や新羅系の瓦が出土している。 大正11年10月12日 国指定史跡。 4基が確認されている。	・小学校の歴史授業							○	○	○	○	平成23年度から窯跡整備開始 国指定史跡
友 6	中央公民館支館		旧大平村中央公民館、21年度の「地域づくり活動事業」の発表会などに利用されている。 今後の有効活用のあり方が課題となっている。	・地域活動の場として活用							○	○			
友 19	西友枝体験交流センター 「ゆいきらら」		平成22年3月に閉校。136年の歴史に幕を閉じた。 平成24年4月1日に西友枝体験交流センター「ゆいきらら」としてオープンした。								○	○			西友枝地区での活用が期待されている。
唐 1	穴ヶ葉山古墳		6世紀末から7世紀初に築造された山国川流域屈指の巨大古墳。石室は巨石を組み合わせ造られ、内部には、鳥・魚・木葉・人物が描かれている。「昭和14年9月7日国指定史跡」	古墳周辺では、ワラビ採り、花菖蒲の鑑賞、カブトムシやクワガタとりなども楽しめる。							○	○	○	○	未整備の1箇所の今後の保存のあり方  国指定史跡 

表-14 保存・整備・管理が必要な資源②

資源		資源の概要		資源を活かした地域活動・祭り										備考		
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者						
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外			
唐 7	百留横穴墓群		崖面に横穴を掘り込んで造られた古墳時代のお墓。現在 49 基が確認されており、穴の数が多いことから地元では、「百穴」と呼ばれている。中央に位置する 1 号墓には、赤色顔料（ベンガラ）による同心円文の彩色がある。昭和 49 年 11 月 25 日町指定史跡。	・百穴壮年会の活動（維持管理を通して、地域の交流）							○	○	○	○	今後の保存修復	
唐 11	宇島鉄道耶馬溪駅跡地（有野）		大正 3 年 1 月 21 日宇島-耶馬溪間で開業。駅跡は梅林があり当時の面影を残している。一段高く作られているホーム跡、レンガ造りの基礎に花崗岩の踏み板を 2 枚渡したトイレ跡が残っている。								○	○	○			
西 2	大ノ瀬官衙遺跡	 	大字大ノ瀬に所在する奈良時代の豊前国上毛郡衙政庁跡。内郭は四面庇付建物を正殿とし、その東に桁行の長い南北棟建物を脇殿として配するし字型の配置をとる。また、柵列によりこれらの建物を囲み、正殿正面には四脚門を有する。そしてさらにもう一重外側に、一辺 150m を測る外郭を形成する柵列跡等も見つかっている。遺構の保存状態もよく、律令期の地方官衙の一形態を示す貴重な遺跡である。	・七夕祭り（道の駅 しんよしとみ） ・上毛祭り		● 7/1 ～ 7/7		● 10/10			○	○	○	○	芝生広場の活用方法が課題。 日陰がない。 地域の人が管理に関与している。 修験の山が一望できる。 眺望の保全。 国指定史跡	
南 6	岩木観音堂		松尾山旧記集には「天台宗松尾山医王寺の山峯宿付で六番宇野村岩木宿有り、観世音、勤行あり」と記されている。本尊は、観音菩薩で、豊前三十三観音の一つ。現在の石像は古い様式。頂上付近には、古墳が残っている。	・修験の春の峰入り ・相撲の業 ・岩木観音相撲の奉納 上り坂が急で、砂利が流されている。		● 8/18					○	○	○	○		
友 2	唐原山城跡		7 世紀中頃に築造されたものと考えられる山城跡。自然の山を利用した城で、北部九州で確認された 12 の城の中の一つ。築造の契機は朝鮮半島における唐・新羅の連合軍による百済滅亡を軸に展開した東アジアの動乱に対処するため、大和朝廷が敷いた国防ラインであると考えられる。								○	○	○	○	国指定史跡	

表-15 修験道に関わる資源

資源		資源の概要		資源を活かした地域活動・祭り										備考		
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者						
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外			
友 4	土佐井磨崖仏 梵字大石		土佐井磨崖仏 菩薩形をした 40cm 前後の像が彫られている。鎌倉時代末頃から室町時代頃の作で、現在確認できるものは数体ほどしかない。周辺には山伏たちの峯入りコースや梵字が刻まれた大石、銅製経筒が出土した経塚があることから、松尾山修験道に関連する遺跡と考えられている。	・梵字大石 地元の人々が天の川原石や天降石といい伝え注連縄などをはって崇めている。 大石には梵字で、阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩、金剛界大日如来が彫り込まれている。 修験道に関連する遺跡で、松尾山の山伏が信仰したものと考えられる。								○	○	○		松尾山修験道遺跡関連
友 10	岩屋薬師堂		大字東上の岩屋集落西側の山腹に薬師如来を本尊とする岩屋薬師堂がある。付近に板碑・五輪塔が多くあり、室町時代（約 600 年前）にはこの場所にお堂があったと伝えられる。	昔は、堂前の広場で奉納相撲を行っていた。 現在は、田植え後の皆作法要や盆供養が行われている。		●						○	○	○	○	松尾山修験道遺跡関連
友 12	岩屋の滝		大字東上の岩屋地区にあり、水中に住み雨を呼ぶ魔力を持つと信じられている龍王を祀った滝。 早魃の際には蛇淵参りといって雨乞いが行われていた。夏は涼を求め、周りの自然は桜、新緑、紅葉など四季を通じて様々な変化を楽しむ。									○	○	○		松尾山修験道遺跡関連
友 17	三社神社 （松尾山）		社号は祭神が三柱であることよりつけられた。 かつては英彦山の修行僧法蓮の弟子、能行が開いた松尾山医王寺とよばれる修験道寺院があった。 松尾山宝塔（町指定文化財）	・山伏弁当 ・修験の道歩き ・蛭 ・英彦山六峰の一つ					食生活改善推進協議会 絵本製作委員会 （松尾山にまつわる昔話をまとめた絵本「松尾山とお薬師様」を作成）	○	○	○	○		松尾山修験道遺跡関連	
唐 10	有野弘法窟		大字原井の有野地区にあり、弘法大師がこの地を巡錫した際に立ち寄ったと伝えられる霊場。 弘法大師が山国川の対岸から窟に向かって投げた筆が壁面に「春蛇秋蚓」と書いたと伝えられている。 洞窟は修行窟であり、江戸時代には四国三十三ヶ所、八十八ヶ所の札所として有名。							○	○	○		松尾山修験道遺跡関連 弘法大師像が盗難		
南 6	岩木観音堂		松尾山旧記集には「天台宗松尾山医王寺の山峯宿付で六番宇野村岩木宿有り、観世音、勤行あり」と記されている。 本尊は、観音菩薩で、豊前三十三観音の一つ。現在の石像は古い様式。 頂上付近には、古墳が残っている。	・修験の春の峰入り ・相撲の業 ・岩木観音相撲の奉納 上り坂が急で、砂利が流されている。		● 8/18				○	○	○	○			
西 5	覚円寺 		昭和 44 年に県有形民俗文化財に指定。福岡県指定有形民俗文化財の輪藏と木造薬師如来坐像を有し長閑な山間に佇むお寺である。												松尾山修験道遺跡関連	


表-16 祭りとして活用されている資源

資源		資源の概要		資源を活かした地域活動・祭り										備考		
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者						
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外			
南 3	八坂神社		この地域に疫病が流行した際、厄病除けの神として牛頭天王を勧進した。本殿の奥行きを感じさせる入口門、廊下等の施設配置。	・とべら祭り （境内でとべらの枝が売られ、この枝を持ち帰り門戸に下げれば厄病の災いを避けられるといわれている）		7/7						○	○	○		
南 5	貴船神社（宇野）		奥行き感のある参道沿いの樹木が荘厳さを感じさせる神社	・成恒神楽			秋祭 10月		成恒神楽保存会		○	○	○	○		
西 2	大ノ瀬官衙遺跡		大字大ノ瀬に所在する奈良時代の豊前国上毛郡衙政庁跡。内郭は四面庇付建物を正殿とし、その東に桁行の長い南北棟建物を脇殿として配するし字型の配置をとる。また、柵列によりこれらの建物を囲み、正殿正面には四脚門を有する。そしてさらにもう一重外側に、一辺 150mを測る外郭を形成する柵列跡等も見つかっている。遺構の保存状態もよく、律令期の地方官衙の一形態を示す貴重な遺跡である。	・セタ祭り（道の駅 しんよしとみ） ・上毛祭り		● 7/1 ～ 7/7	● 10/10				○	○	○	○	芝生広場の活用方法が課題。日陰がない。地域の人が管理に参与している。修験の山が一望できる。眺望の保全。 	
西 3	吉富神社		旧西吉富村にあった全ての神社を合祀し、西吉富の氏神として祀っている。この地は戦国時代に成恒氏の居城があった場所で、神社の裏には堀の跡が残されている。	・成恒神楽（成恒神楽保存会） （舞い手不足により中断期間があったが、地元の若者たちが復活した。若さと勢いと力強さのある舞が特徴。神社への奉納の他、各種イベント、福祉施設、保育園や学校など近隣以外でも舞いを披露。子ども神楽を結成し、保存・育成に努めている）			10月 中旬 秋祭の				○	○	○			
友 3	貴船神社（土佐井）		土佐井の貴船神社には、クスノキの大木があり、その下には昔から湧れることのない霊泉が湧き出ている。そこには、水神様が祀られていて、この霊泉が「土佐井」の語源であるといわれている。	・友枝神楽（11 月から 12 月） （演目の中でも特に優しいお囃子、お姫様二人の優雅な「御子舞」が特徴。神社への奉納の他、各種イベント、福祉施設、保育園や学校などの依頼があれば近隣以外でも舞を披露している。子ども神楽を結成し、保存・育成に努めている）	春祭 5月		秋祭 10月		友枝神楽講		○	○	○			
友 7	八社神社		境内には花崗岩の巨石がみられ、原始宗教の様子を残している。	・友枝神楽 		5月 月上旬			友枝神楽講		○	○	○	○		
唐 5	貴船神社（下唐原）		境内が広く、趣がある	・唐原神楽 （伸びのあるとても優雅なお囃子と、力強くきれのある舞が特徴。神社への奉納の他、各種イベント、福祉施設、保育園や学校などの依頼があれば近隣以外でも舞を披露している。子ども神楽を結成し、保存・育成に努めている）				11月 ～ 12月	唐原神楽講		○	○	○			

表-17 イベントとして活用されている資源

資源		資源の概要		資源を活かした地域活動・祭り										備考	
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者					
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外		
南 4	牛頭天王公園		八坂神社の南、大分県との県境山国川に接した公園。大分県中津市街地を一望できるなだらかな丘の上にあり、地域住民の憩いの場として親しまれている。 公園内には、「芝生広場」や、たくさんのお遊具で子ども達に人気の「児童遊園」があるほか、遊歩道も整備されており、山国川の河川敷まで下りることができる。 園内には展望台、ゲートボール場、弥生時代の復元高床建物などがある。	・さくら祭り （公園内には、100本の桜があり、3月下旬から4月上旬には、「さくら祭」が開催され、午後10時まで公園内の提灯にあかりが灯り、夜桜を楽しむことができる）	●						○	○	○	○	
友 5	友枝川農村公園		町内外の人が四季を通じて楽しめるように、桜・アジサイなど四季折々の花の植栽や水辺環境を整備する「友枝川ふれあいの里づくり」が進められている。	・土佐井ドンクローズが、アジサイの植栽とコスモス等のプランターを設置							○	○	○		
友 8	旧東上小学校		2004年に廃校となった東上小学校の講堂を集会所としてリニューアル。	・築上東 Music-Lovers ・巢雁コンサートプロジェクト （詩吟、日舞、フォークダンスを企画開催）							○	○			
友 11	岩屋の滝さくら公園		平成3年春に旧大平村の地域おこし事業にて区民一同の手作りでできた公園。八重桜や吉野桜のトンネルが楽しめる。		● 桜						○	○	○		
唐 2	森のめぐみ工房 大平 農産物加工場		豊築森林組合が、「木の良さ楽しさを再発見」してもらうために設立した、地場産木工製品のショップ。	・二次製品直売 ・町で取れた野菜を販売						森林組合	○	○	○	○	
唐 3	大平楽 さわやか市 「大平」		大平楽 家族で楽しめる天然温泉（アルカリ性単純温泉）。開放的な露天風呂が特徴のとんぼの湯、屋根付きの大きな桶風呂が特徴。	・ほおずき市 （お盆のほおずきや菊などの帰路花の販売）		● 盆前					○	○	○	○	
唐 4	ふれあいの里 「ログハウス」		大自然の恵みを肌で感じる事が出来るログハウス。 年中無休でいつでも利用可能。	・合宿 ・家族連れで活用							○	○	○	○	

表-18 景観として魅力的な資源

資源		資源の概要		資源を活かした地域活動・祭り										備考	
		写真	特性（特徴）	概要	スケジュール				主催・共催	対象・来訪者					
					春	夏	秋	冬		地区	町内	町外	県外		
友13	中造の滝		上毛町に存在する3つの滝の一つ								○	○			
友14	おとろしの滝		上毛町に存在する3つの滝の一つ								○	○			
友15	九州自然歩道		九州自然歩道は、耶馬日田英彦山国定公園のなかを歩くことができる。町内は西友枝の雁股山から東上の大平山までの約 10km。標高 500 mから 800mの景色は絶景。移りゆく季節を体験できるルート。								○	○	○	○	
友16	貴船神社（大入）の紅葉		紅葉の大木が、秋にはきれいに紅葉する。				●				○	○	○		
友18	松尾の棚田		棚田には、現在、桜が植えられている。								○	○	○	○	棚田耕作の後継者問題

② 検討結果

1) 文化財まちづくり活用を展開していく上での視点

活用方向は、「生涯学習」、「観光」、「人づくり」に分類した。

資源は、「活用が期待される地域の文化財」、「活用が期待される文化財以外の地域資源」、「期待される取り組み・活動団体」、「町文化財活用の核となる松尾山修験」に分類した。

※内容が複数の分類にまたがるものについては、最も重きを置く分類に入れた。

2) 文化財まちづくりへの活用展開

1. 《生涯学習》への活用

表-19 活用が期待される地域の文化財

時代・テーマ	文化財・資源名	活用の方向と課題
②古墳時代	○国指定史跡穴ヶ葉山古墳	
	○百留横穴墓群	→保存のため危険箇所を一度埋めては
③古代上毛郡の中心	○友枝瓦窯跡	・平成23年度から窯跡整備開始
	○国指定史跡唐原山城跡	・史跡範囲の追加指定
⑤修験道遺跡	○岩木観音堂 ○磨崖仏・梵字大石	→安全対策を行う
⑦近世～近代の歴史遺産	○雄熊山の烽火台	→歴史の中でどのように使われたかの位置づけ 発炎筒を炊く、気球を上げるなどによる活用 発掘調査
●拠点施設	○上毛町歴史民俗資料館	

※時代・テーマ欄の○番号は、72頁参考資料（1）時代別の文化財に記載の時代区分

表-20 活用が期待される地域の文化財以外の地域資源

時代・テーマ	文化財・資源名	活用の方向と課題
⑥中世～近世の寺院・神社	○六社神社・天満宮	→すばらしい縁起を伝える。なぎの木の活用。
⑦近世～近代の歴史遺産	○矢方池 ○宇島鉄道耶馬溪 駅跡（有野）	→軽便鉄道路の跡、各駅跡へ看板設置 崩れていない区間の保存・活用 駅舎、トイレ、倉庫、ホーム跡の保全・活用 私有地の対策
⑥中世～近世の寺院・神社	○八坂神社とべら祭り ○有野大歳神社 ○土佐井貴船神社 ○妙円寺・覚円寺	・町内最古の本殿 ・春夏秋冬の地域活動 ・しめ縄づくり、竹で灯明、門松、どんど焼等の 継承活動の芽を育てる ・門前のまち並景観

●町文化財活用の核となる松尾山修験道関連遺跡

- | | | |
|--------------|---------|--------------|
| ○三社神社 | ○岩木山観音堂 | ○松尾山の宝塔 |
| ○岩屋薬師堂 | ○岩屋の滝 | ○梅ヶ谷神社（八坂神社） |
| ○土佐井磨崖仏・梵字大石 | ○横川不動堂 | ○原井観音堂 |
| ○龍福寺跡 | ○有野弘法窟 | |

2. ≪観光≫への活用

表-21 活用が期待される地域の文化財

時代・テーマ	文化財・資源名	活用の方向と課題
③古代上毛郡の中心	○国指定史跡大ノ瀬官衙遺跡	・整備後、他地域の国衙や群衙などとの連携が必要
	○国指定史跡友枝瓦窯跡	・奈良時代の類似する瓦窯跡や廃寺との連携が必要

※時代・テーマ欄の○番号は、72 頁参考資料（1）時代別の文化財に記載の時代区分

表-22 活用が期待される地域の文化財以外の地域資源

時代・テーマ	文化財・資源名	活用の方向と課題
③古代上毛郡の中心	○原井の井戸	宇佐神宮との関連
⑥中世～近世の寺院・神社	○覚円寺	門前のまち並景観－薬師如来・輪蔵と合わせて－
自然	○友枝川、東友枝川のホタル	
公園	○岩屋の滝さくら公園	
	○牛頭天王公園	中津市街が一望できるロケーション
建物	○西友枝体験交流センター「ゆいきらら」	・お茶、そば等、地域で取れたものを味わえる場として活用 ・村の学校がそっくり残っているまれな例 50 年 100 年後の文化財
	○中央公民館支館	・地域活動の場としての活用

●町文化財活用の核となる松尾山修験関連遺跡

- 覚円寺（薬師如来坐像・輪蔵）
- 松尾山のお田植祭
- 松尾山修験全体（山と里に点在する行場など）

3) 《人づくり》への活用

●期待される取り組み・活動団体

- 吉岡巨石塚保全グループ（吉岡巨石塚保存会）
- 大ノ瀬自治会（官衙遺跡での景観作物栽培）
- 松尾夢クラブ
- 友枝小学校児童により受け継がれるお田植祭
- 絵本製作委員会
- ネットワーク友枝（各地区まち歩き）
- 松会保存会
- 松尾山修験道回峰行実行委員会
- お囃子どん
- 百穴壮年会
- 友枝神楽講
- 成恒神楽保存会
- 唐原神楽講

☐ 上毛町文化と歴史を学ぶ会

☐ 食生活改善推進協議会

☐ 西友枝ニコニコ会

☐ 豊築森林組合

☐ 土佐井ドンクローズ：友枝川農村公園で、アジサイの植栽とコスモス等のプランターを設置

表-23 分野別・地区別活動団体

	歴史	祭り・イベント	環境・景観	その他
町全体	上毛町文化と歴史を学ぶ会		豊築森林組合	絵本製作委員会 食生活改善推進協議会
南吉富地区	大ノ瀬自治会 吉岡巨石塚保存会	成恒神楽保存会		
西吉富地区		成恒神楽保存会		
唐原地区	百穴壮年会	唐原神楽講		
友枝地区	松尾山修験道回峰行実行委員会	松会保存会 友枝神楽講 友枝小学校	松尾夢クラブ 土佐井ドンクローズ 西友枝ニコニコ会	ネットワーク友枝

(4) 文化財活用まちづくりに向けた課題（展開）

町の文化財の現状、文化財に関わる地域活動の状況、及び、委員会において出された意見等から、文化財のまちづくりへの活用を展開していく上での課題を整理する。

① 文化財の周知、歴史の継承に関わる課題

《案内整備》

- ・ 指定物件の図面・サイン・説明板・パンフレットなどのソフト面の充実が必要である。
- ・ 道路から現地が直接見えるところに遺跡の説明表示が必要である。
- ・ 案内板や説明板を設置し、学習できる環境の整備が必要である。

② 文化財の保護・整備・管理に関わる課題

《保存管理の徹底》

- ・ 盗難、焼失等に対する対策の徹底が必要である。

《復元整備》

- ・ 松尾山の山内にあった2、3の堂社を復元・整備する必要がある。
- ・ 一般の人や町内の人が見て、ここが駅舎の跡と分かるくらいの整備する必要がある。
- ・ 遺構として残っている建物や倉庫、トイレなどを整備していくことが必要である。

《指定》

- ・ 歴史の中での位置づけ、歴史の中でどのように使われたのか、全国的な位置付けが必要である。
- ・ 指定の網を今後のためにかけておくことが必要である。
- ・ 無形とか民俗とか個々での評価というより、遺跡、伝統行事、道具など一括で価値評価していくことが必要である。
- ・ 遺跡の調査内容だけでなく、残っている民俗行事、道具、付随するもの全部を町民の皆さんに知ってもらうことが必要である。
- ・ 現代生活の中で活用された建物は将来、貴重なものとして評価される文化財になるので、保存していくことが必要である。

《整備手法》

- ・ 現段階から使用できる補助事業メニューを挙げていくことが必要である。
- ・ 歴史まちづくり法や同様のメニューの活用を検討する必要がある。

《地域での保存・管理》

- ・ 多くの地域で取り組んでいる活動の芽をいかに育てていくかということが、今後のまちづくり計画に必要である。
- ・ モニュメントとしての文化財でなく、その地域でその文化財を守っている人たちの思いを伝えてもらうことが必要である。
- ・ 地主の承諾を得て整理を行うことが、第一段階として必要である。

③ 文化財の活用に関わる課題

《資源の活用》

- ・ 雄熊山の烽火台に展望台などを設置し、町のシンボルづくりが必要である。
- ・ 岩屋の滝は生きている滝、水の流れで生きている感覚があり、積極的な活用が必要である。
- ・ 神輿はお祭りの時以外でも展示して、いつでも見られるような状態をつくる必要がある。
- ・ 見て懐かしむだけでなく、地元産物の提供など施設を活用することが必要である。
- ・ 町全体に広がるぐらいに四季の祭り、イベントを育てていくことが必要である。

《観光》

- ・広域観光を視野に入れ、宇佐、北九州、国東周辺部も入った地図を使用していくことが必要である。
- ・耶馬溪と連携したコースを設定し、集客の増加を図ることが必要である。
- ・観光バスツアーとして旅行商品など、多様なメニューを提供することが必要である。
- ・文化財をコミュニティ維持や他地域から観光客などの流入のツールとして使うために、役場内の各部署が横断的に取り組む必要がある。

④ 地域資源の活用と情報発信に関わる課題

《地域づくり活動との連携》

- ・活動団体等の上毛町内での連携が必要である。
- ・団体等の活動と来訪者の交流の場の創出が必要である。
- ・食生活改善推進協議会などと連携し、郷土料理の再現や松尾漬け、お茶などをアピールすることが必要である。
- ・健康増進など歴史以外からの活用も検討する必要がある。

《情報発信》

- ・定住自立圏構想の活用により、町の情報を中津市等他市町村の広報に掲載してもらうような取り組みが必要である。
- ・映像を活用した普及活動が必要である。

3. 上位計画に見るまちづくりの指針

上位計画である「第1次上毛町総合計画」、「上毛町コミュニティ計画」で掲げられているまちづくりの内容を踏まえ、文化財を活用したまちづくりに関係ある内容について以下に整理する。

(1) 第1次上毛町総合計画

上毛町のまちづくりの将来像として「みんなでひらく上毛の未来」を掲げ、4つの基本目標、施策の方向性を例示している。

基本目標1 **交流そして協働へ** ひとりひとりがまちの経営者

- 地域活動・地区コミュニティ活動の充実
- NPO活動・ボランティア活動の充実

基本目標2 **育みあうまち** ひとりひとりがまちの活力

- 「道の駅」のまちおこし拠点化
まちの情報を外部に発信し、かつ外部からの情報を受信する拠点としての機能強化を図り、まちのあらゆる産業での活用、周辺各種施設等とのネットワーク化をすすめます。

基本目標3 **活かしかうまち** ひとりひとりがまちの未来

- 自然に身近に触れ合える環境の整備
- 観光資源の創出
散在する多くの地域の歴史資源を有効に活用し、これらをネットワーク化した新たな観光施策の展開を図ります。さらに観光客の受け入れに住民が携わる方策の検討を進めるとともに、「お田植祭」「神楽」などの地域に残る祭礼文化をイベント等と連携する形で積極的に活用します。
- 生涯学習体制の充実と活動の推進
- 地域文化の継承と文化芸術活動の推進
歴史的資源、文化資源の保存整備、継承に努めるとともに、住民が郷土に誇りと愛着を持てるように、これらについて学び、ふれあえるような活用を図ります。また、個性豊かな文化の創造を目指し、NPO・文化団体・サークルの活動支援や文化イベントの充実等に努めます。
- 地域間交流、国際交流の推進
教育・文化、経済、スポーツなど、多様な側面からの周辺市町との交流活動を推進します。さらに、これを国内諸都市に拡大させた、地域間交流ネットワークの形成を図ります。

基本目標4 **支えあうまち** ひとりひとりがまちの真心

- 田園型ライフスタイルの創造・発信と良好な住環境の推進

(2) 上毛町コミュニティ計画

上毛町が持つさまざまな課題を解決するために、南吉富・西吉富・友枝・唐原の4つの地区の計画と上毛町全体の計画、合わせて「88 プロジェクト」をつくっている。88 プロジェクトのうち、上毛町全体の計画として 15 のプロジェクトがあり、各地区の計画が発展した後に4地区が協力しあって実行していくこととしている。

01	みなさんおはよう	02	人材バンク	03	地域情報の発信
04	自給自足体験	05	農地バンク	06	上毛町のブランド化
07	上毛印の販売	08	環上毛町連合会	09	世間遺産
10	史跡伝承	11	観光資源をつなぐ	12	移動図書館
13	ヘルパー育成	14	空家バンク	15	コミュニティタクシー

上毛町全体の15のプロジェクトの中から、本計画に密接に係わるプロジェクトを下記に整理する。

03 地域情報の発信 ～情報発信拠点の活用～

道の駅や東九州自動車道パーキングエリアなどを、各地域の自治会や商工会が中心となり、地元のイベントや地元生産品の情報を持ち寄り宣伝するなど、地域を案内する情報発信拠点として活用していきます。

06 上毛町のブランド化 ～地元産業の活性化～

ブランド認定組織を立ち上げ、地元食材や地元生産品を「上毛印」としてブランドに認定し、地元の生産物の質を高めると共に地域産業の活性化を図っていきます。

07 上毛印の販売 ～各地域の名産品の販売促進～

各地区の販売ブースを、道の駅しんよしとみや大平楽・さわやか市に設け、各地区から持ち寄った上毛町ブランドを販売し、周知していきます。

08 環上毛町連合会 ～周辺地域との連携～

商工会や特産品の生産者が中心となって、中津市や豊前市をはじめとした周辺市町と、観光ブランド化についての情報交換を行うなどの地域産業の活性化に向けた交流と協力をしていきます。

09 世間遺産 ～地域活動の促進～

「世間遺産認定機関」を立ち上げ、良い活動を行っている人材や、地域住民によって良く手入れされている史跡などの物や場所を、上毛町の宝として世間遺産に認定し、町も協力して周知していきます。

10 史跡伝承 ～歴史の再整理～

専門家や高齢者の協力のもと「史跡保存会」を立ち上げ、町内に存在する史跡の調査や、歴史をたどることができるガイドブックの作成、勉強会の開催などを通して、各地で史跡の伝承を行っています。

11 観光資源をつなぐ ～町内の観光資源を一体的に利活用する～

自治会などの各々の観光資源の管理者が連携し、統一感のある案内板の製作や散策路の整備など、各地域に点在する観光資源を一体的に体験できるような工夫を行っています。

各地区のプロジェクトの中から、本計画に係わるプロジェクトを下記に整理する。

南吉富地区 17 プロジェクト

- 09. 生涯学習～空き校舎の活用～
- 07. 溜め池再生～用途転用で溜め池を修景～
- 09. 生涯学習～空き校舎の転用～
- 10. 友枝川遊び～親水空間で世代間交流～
- 13. 隠れた教材～地区内の隠れた遺産を発信～
- 14. 牛頭天王公園～地区内名所の利用促進～
- 15. 地域の美化運動～集落をこえた清掃活動～
- 17. 訪問交流～子どもの活力を活かす～

唐原地区 20 プロジェクト

- 02. 山国川流域各所巡り
～区域を越えた流域文化圏の連携～
- 03. 宇島鉄道跡地を魅せる
～駅各地を地域で再活用～
- 05. 地元の特産品～果樹加工品アピール～
- 06. 水遊び野遊び～身近な自然を感じる～
- 08. 穴ヶ葉山古墳の保全
～古墳周辺・菖蒲園の管理～
- 09. レシピも一緒に
～地元特産品を活かし広める～
- 10. 賑わい拠点のアピール
～大池公園周辺を中心に～
- 11. 天井絵馬の保存
～六社神社と天満宮の維持管理～
- 12. 情報の拠点
～唐原コミュニティセンターの活用
(その1)～
- 13. 交流の拠点
～唐原コミュニティセンターの活用
(その2)～
- 14. ならわしの伝承
～唐原小学校・保育園跡地の活用～
- 15. 百留横穴墓群の保全
～百穴を巡る散策路～
- 16. 潤いの拠点～蔵尾井堰周辺の整備～
- 17. 寺町の風格～集落景観の保全・創出～
- 18. ギャラリー唐原～原井小学校跡地の活用～
- 20. 有野弘法窟の保全
～案内板の設置・周辺美化～

西吉富地区 17 プロジェクト

- 03. ボランティア育成
～ボランティア活動を派生させる～
- 04. お弁当ボランティア
～各集落に派生させる～
- 06. 佐井川の日～自然の中で子どもが遊ぶ～
- 07. 蛍水路保全～蛍がいる自然環境を保つ～
- 09. 地元素材アピール～地産地消の推奨活動～
- 12. 文化遺産アピール
～文化遺産の町内外への周知～
- 14. 尻高米のブランド化
～まちの名産品づくり～
- 15. I ターン促進～道の駅 I ターンブース～
- 16. 道の駅遺跡倶楽部～道の駅遺跡を周知～
- 17. 矢方池保全～自然保全と利用の提案～

友枝地区 19 プロジェクト

- 02. 地域拠点をつくる～交流の拠点づくり～
- 03. 合同まちあるきの開催
～内外の事をよく知る～
- 06. 友枝は教育の場
～子どもの地域教育の支援～
- 08. 農作物のブランド化～広報と販路の開拓～
- 09. 助け合いネット～地域人材の発掘と活用～
- 10. 食育・地産地消～地域の物は地域の中で～
- 12. 里山づくり～友枝の里山をよく知る～
- 13. 棚田バンク～まずは松尾～
- 14. 旧中央公民館の利用
～伝統建造物の積極的な利用～
- 15. お田植祭の継承～お田植祭の広報と継承～
- 16. 神楽の継承～神楽の保存と継承～
- 17. 農業のある風景の継承
～棚田や古い石垣の風景を残そう～

4. 計画の理念と目標

(1) 基本理念

上毛町では自然、歴史、文化資源を活かして地域活動やコミュニティ活動の充実を図り、観光客の受け入れに住民が携わるなど多様な視点から交流活動を推進し、地域間交流の形成を目指している。そこで、本計画のキーワードとして、下記の3つを掲げる。

- 上毛の宝 自然、歴史、文化資源
- おもてなしの心 観光客の受け入れに住民が参画
- 交流 地域活動やコミュニティ活動、周辺市町との交流活動

これらのキーワードを踏まえ、上毛町の文化財を活用したまちづくり計画の理念として、

上毛の宝を活用し、おもてなしの心で交流の輪を広げます

を掲げる。



(2) 基本方針

基本方針として、以下の4つの柱を設ける。

1. 町の宝を守り、次世代に継承する

町の宝である文化財や地域資源は、地域に受け継がれてきた歴史や生活様式を知る貴重な宝である。それらを守り、次世代に継承する。(例えば、松尾山修験道など)



2. 町の宝を整備し、活用する

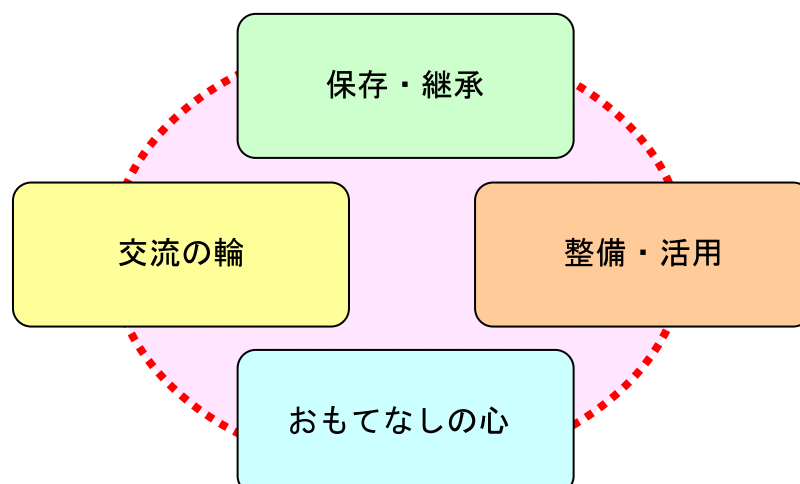
未整備、未活用の文化財や地域資源を整備し、多様な活用を行う。また、情報拠点や来訪者へのおもてなしの拠点などを整備し、活用する。(例えば、歴史民俗資料館、廃校跡など)

3. 地域活動団体の支援や地域の人材を育成し、おもてなしの心を広げる

地域活動団体を支援し、交流を促進するとともに、おもてなしの心を地域ぐるみで育てる。(例えば、祭やイベントでのおもてなし、心あたたまる来訪者との対話、説明など)

4. 交流の輪を広げる

周辺市町と連携し、史跡や観光地めぐり、食やお土産などの地域資源の情報発信を行い、地域の活性化や人々の交流を促進する。(例えば、史跡巡り、食のイベントなど)



(3) 計画目標の設定

基本方針のもと、以下のように計画目標を設定する。

1. 町の宝を守り、次世代に継承する

1-1 文化財や伝承を良好な状態で保全する。

文化財・伝承を保存や記録などにより、良好な状態で保全していく。(例えば、指定文化財、言い伝え、生活文化など)

1-2 破損、盗難に対する取り組みを行う。

破損や盗掘、盗難の恐れがあるものについては、優先的に取り組む。(例えば、安養寺千手観音、百留横穴墓群、日熊観音堂など)

1-3 わかりやすく価値を伝える。

文化財や地域資源の価値を町民や来訪者にわかりやすく伝える。(例えば、パネルや絵本など)

1-4 子どもたちに町の宝を伝える。

学校教育や体験学習等で子どもたちに町の宝を伝える。(例えば、総合学習や子ども検定など)

2. 町の宝を整備し、活用する

2-1 情報拠点として歴史民俗資料館を活用する。

町の歴史や民俗の紹介、文化財や地域資源の収蔵・展示などを行う情報拠点として、歴史民俗資料館を整備し、活用する。

2-2 おもてなしの拠点として廃校、公民館を活用する。

中央公民館支館や旧西友枝小学校の整備を図り、地域活動やおもてなしの拠点として活用する。(例えば、中央公民館支館での講演会、演奏会、サークル活動など、旧西友枝小学校での宿泊、映画のロケなど)

2-3 ガイダンス施設として道の駅、大平樂を活用する。

国道10号に面する道の駅、大平樂を上毛町の魅力をアピールするガイダンス施設として活用する。

3. 地域活動団体の支援や地域の人材を育成し、おもてなしの心を広げる

3-1 地域活動団体を支援する

地域活動団体をハード、ソフトの両面から支援する。

3-2 団体間の交流を促進する

団体間の交流を促進するとともに、新たな活動部会の設置を促し、地域資源の連携による活性化を図る。(例えば、サクラ部会、神楽部会、ホタル部会など)

3-3 ガイドを育成する

ガイド(来訪者への解説・説明)を育成し、来訪者との交流を深める。

3-4 生涯学習の中で活用する

生涯学習の一環として、身近な文化財や地域資源に触れ、関心を深めていく。

3-5 新たな地域資源の企画、開発を支援する

観光、イベント、食、お土産などの新たな地域資源の企画、開発を支援する。

4. 交流の輪を広げる

4-1 広域圏での交流促進する

福岡・大分をつなぐ観光や祭り、イベントの各種ツアーを企画し、相互交流による相乗効果を高める。

4-2 国、県及び周辺市町と連携する

国、県及び周辺市町と連携し、年間のイベントや祭りを通じて交流の輪を広げる。(例えば、サクラと神楽、ホタルと神楽をセットにしたメニューなど)

4-3 史跡、観光、食、土産などをアピールする

史跡、観光地、食、お土産などを横断的、複合的に組み合わせたメニューにより、楽しみの輪を広げる。

5. 個別計画

計画目標の実現のため、以下のように個別計画を設定する。

(1) 町の宝を守り、次世代に継承する

1-1 文化財や伝承を良好な状態で保全する

(1) 文化財の一元的な把握・管理

町の宝を整理するため、文化財の調査を行いデータベースを作成し、一元的な把握・管理を行う。

(例えば、文化財分布調査、町内仏像等の調査など)

(2) 有形文化財の保存

町内の有形文化財の保存に向け、指定手続、保存修理、整備等を行い、適宜公開等を進める。

(例えば、国指定史跡友枝瓦窯跡、松尾山修験道遺跡、烽火台跡など)

(3) 無形文化財の保存・継承

次世代を担う若い人材を育成するとともに、周辺地域との連携で継承できる仕組みをつくり、地域で受け継がれてきた無形文化財を保存し、継承する。

(例えば、松尾山修験文化、神楽など)

(4) 埋蔵文化財の保存

町内開発事業の内容確認等事務手続きを確立し、開発事業による埋蔵文化財の消滅を防ぐ。

(5) 登録文化財としての申請

国の登録文化財としての登録を目指し、指定文化財以外の遺産の保全を図る。

(例えば、旧西友枝小学校、公民館支館など)

(6) 土木施設・周辺景観の保全・整備

人々の営みや技術を伝えるために、河川、池・交通施設・まちなみなどの土木施設・周辺景観の保全・整備を行う。

(例えば、矢方池、宇島鉄道線路跡、門前町など)

(7) 自然資源、景勝地、農村風景の保全

美しい景観を守るために、棚田、滝、蛍水路、紅葉などの景勝地の保全を図る。

(例えば、棚田、岩屋の滝、貴船神社の紅葉など)

(8) 記録保存

伝承の映像化、記録化により、歴史の再整理をし、目に見える、見やすい形で残す。

(例えば、DVD化、記録誌など)

1-2 破損、盗難に対する取り組みを行う

(1) 防災対策の充実

風雨・流水などによる損傷を防ぎ、火災から文化財を守る。崩落、破損の恐れがあるところは、埋戻し等の保存処置を行い、史跡の保全に努める。

(例えば、ハザードマップ、防災施設工事、百留横穴墓群での埋戻し等の保存処置など)

(2) 防犯対策の充実

盗難、破損から守る手立てを示し、所有者との協議を進めるとともに、寄託制度の活用により、町の宝として公開できるよう関係者との協議を進める。

(例えば、安養寺千手観音、修験道関連有形文化財など)

1-3 わかりやすく価値を伝える

(1) 案内・説明の充実

場所を案内する、現場で説明する、資料で説明する。

(2) わかりやすい資料づくり。

絵本による歴史解説、ガイドブック、映像など、一般の人にわかりやすい資料づくりを行う。

(3) 価値の再評価、新たな価値づけ

学術的な調査・研究の推進等により、学術的な評価や新たな視点での評価を加え、価値付けを行う。

1-4 子どもたちに町の宝を伝える

(1) 学校で教える

総合的な学習、子どもたちの体験学習、親しみやすく、関心を持たせる教材を通じて郷土愛を育成する。

(2) 地域で伝える

語り部、読み聞かせ、しつけ、郷土料理など五感を通じた人から人への交流を地域で充実する。

(2) 町の宝を整備し、活用する

2-1 情報拠点として歴史民俗資料館を活用する

(1) 歴史民俗資料館のリニューアル

施設のリニューアルなどにより魅力的な収蔵・展示空間を創出するとともに、町の宝を適切に保存・公開できる歴史銀行としての機能を付加し、情報拠点としての魅力を高める。

(2) 保存を中心とした行政の取り組みの推進

基本を大切に守り続け、寄託制度等の周知により、収蔵手段の充実を図る。

2-2 おもてなしの拠点として廃校、公民館を活用する

(1) 西友枝体験交流センター「ゆいきらら」の活用

国の登録文化財としての登録を目指すとともに、地元との協働により保存・管理の仕組みづくりを行い、魅力ある企画を展開し、おもてなしの拠点として活用する。

(2) 中央公民館支館の整備、活用

国の登録文化財としての登録を目指すとともに、空間の広がりを活かしてイベントや展示などを企画し、広域的に活用できる施設にする。

2-3 ガイダンス施設として道の駅、大平樂を活用する

(1) 道の駅・大平樂をガイダンス施設として活用

立地特性を活かし、来訪者に上毛の宝をアピールするガイダンス施設として活用する。

(3) 地域活動団体の支援や地域の人材を育成し、おもてなしの心を広げる

3-1 地域活動団体を支援する

(1) 地域活動団体の支援

地域活動団体との情報交流を進め、ソフト、ハード面の支援を行う。

(2) 祭りの継承活動支援

祖先から受け継ぎ、地域で守られている祭りを継承していくための活動を支援するとともに、次代に継承していくための仕組みづくりを支援する。

3-2 団体間の交流を促進する

(1) 団体交流促進会の支援

交流促進会の活性化を図るため、専門家の派遣や経済的な支援を行う。

(2) 新たな活動部会の設置

地域資源を効果的に活かせるような新たな活動部会の設置を地元に働きかける。

3-3 ガイドを育成する

(1) ボランティアガイドの育成

来訪者への心温まる説明を積極的に行うため、ガイドブック作成委員会メンバーの加入等によるボランティアガイドの育成を図る。

3-4 生涯学習の中で活用する

(1) 生涯学習プログラムの作成

まち歩き会の実施、歴史講座の開催など、目標を明確にした生涯学習プログラムを作成する。

3-5 新たな地域資源の企画、開発を支援する

(1) 食、土産の開発支援、伝統料理の復活・継承

地域住民・活動団体による自主的な取り組みを支援し、促進する。伝統料理の復活・継承を目指す。

(4) 交流の輪を広げる

4-1 広域圏での交流を促進する

(1) 広域観光圏の連携

環上毛連合（旧上下三毛郡）の結成により、同一文化圏としての理解を深める。

4-2 国・県及び周辺市町と連携する

(1) 国・県及び周辺市町との人材、情報交流

行政間の人材交流や、情報の共有を促進させる。

(2) 資源を関連づけ、結びつける

福岡・大分の資源をつないだ観光に、町内資源の見学やイベント等を組み合わせ、観光ツアー等を企画することで、交流人口を増加させる。

4-3 史跡・観光・食・土産などをアピールする

(1) 観光・食・土産のデータベース化と情報発信

上毛印のブランド化、レシピ、弁当のメニュー開発により、楽しみの輪を広げる。
周辺市町のイベント等を紹介するマップを作成し、情報を共有する。

(2) 町の中心部と山あいの集落との連携

観光の拠点となる道の駅や大平楽と山あいの集落にある景勝地をつなぎ、人を呼ぶ。

(3) 情報媒体の活用

各種メディアと連携し、魅力ある情報の発信を行う。

6. 推進計画

(1) 推進計画の視点

計画の目標に基づき個別計画を推進していくために、事業の目的、官民の役割分担、対象者、年次計画等を明確にする。

① 事業の目的

- 地域の貴重な資源である文化財を保存・活用する。
- 文化財を町民にとって身近なものにする。
- 文化財を保存継承している団体や文化財を活用して地域のコミュニティづくりを行っている団体との連携による役割分担を行う。
- 将来に向けて文化財をまちづくりに活かす

② 対象者に対応した事業展開

対象者の関心段階(「見る(ことができる)」→「知る」→「関心をもつ」→「わかる」)に応じた、有効な取り組みを考える。

1) 「見てもらう」ために： ・見やすくする、見せる機会を増やす

(場所を案内する)

- ・サインの整備 →サイン整備計画

(ここだとわかるようにする)

- ・道路から見えるようにする
- ・環境整備をする
- ・標柱を建てる(ステンレス製)

(環境整備をする)

- ・花を植える

(見せる、見られるようにする)

- ・神輿の置き場・展示場をつくる

2) 「知ってもらう」ために： ・紹介する、見せる、案内する、情報提供をする

○地域の子どもたちに向けて： ・参加させ、体験させる→興味を持たせる

(調べる)

- ・学校等での郷土学習(郷土史、わが町マップづくり)
- ・我が家の年表づくり、ルーツ探し

(参加する)

- ・見学など参加イベント、地域の保存伝承活動を見せる
- ・まち歩き
- ・祭りや年中行事への参加(子供保存会、神楽サークルなど)
- ・墓地の清掃、先祖供養

(聞かせる)

- ・民話の絵本作成、民話の読み聞かせ

○地域外の人に向けて： ・特色(希少性、典型性)のPR

(PR、発信する)

- ・メディアの活用(旅番組、芸能人の訪問番組、ミニコミ誌)

3)「関心を持ってもらう」ために

○地域の大人に向けて

(自分自身(の生活)との結びつきを感じてもらう)

- ・居住地の成り立ち
- ・人物史

(全国的な観点から評価してもらう)

- ・学者・研究者による研究、学会等での発表
- ・マニアの活用：巨石マニア、鰻絵マニア、鉄道マニアなどの豊富な知識、独自の視点

(地域の専門家の話を聞く、調査してもらう)

- ・住職や神主(禰宜)による説明→講話会(縁起、由来などを語ってもらう)
- ・郷土史家など専門家の活用
- ・ヘリテージマネージャー(建築士会)

(活動団体メンバーの話を聞く)

- ・想いを伝える

(学ぶ機会を設ける)

- ・集落での歴史の勉強

(わかりやすい資料を作る)

- ・上毛歴史・文化検定の実施に向けた、テキスト、問題集の作製

(埋もれている財産を探し出す)

- ・町の登録文化財制度(独自の支援制度)
- ・なんでも鑑定団の誘致
- ・寄託制度

○地域外の人に向けて

(文脈、ストーリーを構成する)

- ・編年
- ・誰もが知っている歴史の出来事・人物と関係づける

(広域での位置づけ・連携を図る)

- ・英彦山六峰、求菩提六峰、修験道
- ・原井の井戸(宇佐神宮の柚始めの井戸)⇒・中津市民や宇佐市民への情報提供・案内
- ・牛頭天王公園・八坂神社のとべら祭
- ・サイクリングルート(耶馬溪のサイクリングコースとの連携)
- ・イベントの連携開催
- ・広域観光ルートに組み込む(中津のコスモス、宇佐神宮、安心院の佐田京石＝環状列石)

(他の資源とセットにする)

- ・観光ツアー商品の提供
- ・四季の行事、自然資源(滝やほたる)、景観
- ・唐原焼
- ・特産品(食)とのセット
- ・農作業体験などとのセット

(歴史的な景観を残す)

- ・門前町(覚円寺、妙円寺)

(普段見られないものを見せる)

- ・御本尊の開帳

4)「わかってもらう」ために： ・説明をする、位置づけを明確にする

(理解を深めるための情報提供)

- ・解説資料の作製（リーフレット、パンフレット）
- ・どのような背景で作られたのか、どのように使われたのかなどの説明
- ・映像による説明

(ガイドする)

- ・地元のボランティアが対応

(専門的な説明の機会)

- ・「上毛歴史大学」の開催

(国内の同種・類似文化財との連携、比較)

- ・雄熊山烽火台跡と中津城や関連する周辺烽火台跡などと気球繫留や狼煙による伝達再現イベント
- ・巨石による古墳の築造（吉岡地区・下唐原地区）
- ・全国の瓦窯跡との連携（友枝瓦窯跡）
- ・全国の官衙遺跡との連携（大ノ瀬官衙遺）
- ・西日本の古代山城との連携（唐原山城跡・古代山城サミットなど）
- ・覚円寺の輪蔵……松尾山医王寺にあったものが、明治初めの神仏分離の際に当地に移築保存されたもの）
- ・〇ヶ所巡り（有野弘法窟）、散策ルートなどを設定する
- ・「全国△△サミット」、「〇〇交流」
- ・豊前三十三観音めぐり

5) 来訪者（観光客）の目的や意識と受け入れる町・住民の目的・意識と対応

文化財・地域資源を観光の振興に活用していく方策を考える際に、ただ来てほしい、見て欲しい、町内で消費してほしいなどと思うだけではなく、見に来てくれる観光客がどのような意識やニーズを持っているかを十分に把握、検討して、興味を持ってもらえるような工夫、丁寧な説明、おもてなしの心による受け入れなどに取り組む必要がある。

以下に、文化財を見に来る人や、観光客に期待する目標と、それに対する対応の考え方を整理した。

表-24 目標別対応

目標	町・住民	来訪者	対応
当地域に来てもらう	・わが町に来てほしい	・知らない、知られていない ・どうやって行くのかわからない ・通ったことはあるが気づかない	・知られるようにする ・来やすくなる（アクセス） ・存在を示す（幹線道路沿いで）
当地域の資源を見てもらう	・わが町の良いところを見てほしい （自慢したい）	・どんなものがあるのか知らない ・どこにあるのか知らない ・関心のある資源ではない （見たいと思うものではない） ・良いとは思えない（期待外れ）	・紹介する（情報発信） ・場所を案内する ・関心・興味が湧くようにする ・関心のある人をターゲットにする ・期待を裏切らないようにする
当地域の資源の価値を知ってもらう	・評価してほしい（良い評価がほしい） （→住民の愛着、誇り）	・良いもの、珍しいものを見たい ・有名ではないと思う ・何が良いのかわからない	・特徴や良さを明確化する ・価値を説明する（外部評価を活用する、ていねいに説明する） ・他地域と比較する
当地域を理解してもらう	・当地域の良さ・魅力を感じてほしい ・わが町のことをトータルに知ってほしい	・どこにでもあるだろうと思う ・地域全体のことは知らない（目的地だけでよい）	・地域の特徴的なものを中心に案内し、他地域との違いを知ってもらう
当地域内を巡ってもらう	・色々と見てほしい	・良いもの、珍しいものを見るだけでよい ・道がわからない（交通手段が無い） ・時間が無い	・関連性を持たせる ・ストーリー、テーマを明確化 ・ルートを案内する ・サインを設置する ・資源各々を魅力あるようにする
当地域内で楽しんでもらう	・楽しんでいてほしい （また来たいと思うようになってほしい）	・楽しくない、魅力が無い ・1回来ただけでもう十分	・食や土産物、娯楽などを複合的に提供する ・もてなし、サービスをする ・環境や景観をよくする
当地域内で滞留してもらう	・ゆっくりしていてほしい	・長くいたいと思うような所ではないと思う（すぐ飽きる）	・時間消費型になるよう工夫する ・体験型の宿泊を提供する
当地域内で消費してほしい	・お金を落としてほしい	・購買意欲を刺激するものがない	・特徴のある産物を提供する ・お金を払う価値があると思えるような品、サービスを提供する
住民と交流してもらう	・住民と交流してほしい	・関わりたくない ・チャンスが無い	・関わってもらうしかけをする ・参加型のプログラムを提供する

(2) 推進方策の検討

推進のプロセスを明確にするために、個別計画のねらいを整理し、施策の検討・選定を行う。

【1. 町の宝を守り、継承する】

1-1 文化財・伝承を良好な状態で保全する

(1) 文化財・地域資源のデータベース（総合目録）作成

- ①データベースの対象の設定(指定文化財、指定文化財に準ずる文化資源、その他の町民文化など)
- ②データベース記載事項の検討、決定(名称、位置、時代、規模、資源の概要、歴史的価値など)
- ③資源調査(町民参加による現状把握・カード作成、「基本情報カード」の作成など)
- ④資源データベースの構築
- ⑤データベースの管理・運用
- ⑥モニタリング調査、データメンテナンス、追記
- ⑦データの公開、活用

(2) 有形文化財の保全

- ①対象文化財等(指定文化財及び指定候補、その他準ずる文化資源)⇒・リスト化
〔百留横穴墓群、穴ヶ葉山古墳、吉岡巨石塚、垂水廃寺、友枝瓦窯跡、大ノ瀬官衙跡、唐原山城跡、成恒城跡、有野弘法窟、土佐井磨崖仏・梵字大石、雄熊山烽火台跡〕
- ②現況調査、保存上の問題・課題
- ③保存方針(価値の明確化、価値評価、優先順位)⇒指定等の区分
- ④個別保全管理計画の策定
- ⑤保全整備費用の確保
- ⑥個別保全整備事業

(3) 無形文化財の継承

- ①対象文化財等(指定文化財及び指定候補、その他準ずる文化資源)⇒・リスト化
〔松尾山のお田植祭、春の峰入り、成恒神楽、友枝神楽、唐原神楽、神社の春・秋祭り、とべら祭、相撲の奉納〕
- ②現況調査、保存上の問題・課題(映像記録、後継者、用具の保全、場所の確保)
- ③保存方針(価値の明確化、価値評価、優先順位)⇒指定等の区分
- ④個別保存継承方針
- ⑤実演等公開機会の確保、実施

(4) 埋蔵文化財の保全

- ①対象文化財等(指定文化財及び指定候補、その他準ずる文化資源)⇒・リスト化
- ②現況調査、保存上の問題・課題
- ③保存方針(価値の明確化、価値評価、優先順位)⇒指定等の区分
- ④個別保全管理計画の策定
- ⑤保全整備費用の確保
- ⑥個別保全整備事業

(5) 登録文化財としての申請

①対象文化財等

〔中央公民館支館「懐旧館」、西友枝体験交流センター「ゆいきらら」、その他建築後 50 年以上の建造物で、良好な景観を有するもの〕

②現況調査、保存上の問題・課題（実測図の作成、価値評価→申請書作成、所有者同意）

③その他の候補の選定

④国の登録簿に登録されない場合の対応⇒・町独自の認定登録制度（例：台東区文化財登載制度）

(6) 土木施設・周辺景観の保全・整備

〔矢方池、河川、その他溜池、宇島鉄道跡、門前町の景観〕

①対象文化財等

②その他の候補の選定

③現況調査、保存上の問題・課題

④仮称「歴史文化保存活用区域」の設定（諸施策の総合的・重点的实施）：（例 佐渡）

(7) 自然資源・景勝地、農村風景の保全

①対象文化財等

〔岩屋の滝、中造の滝、おとろしの滝、九州自然歩道、松尾の棚田、友枝川のホタル、なぎの木〕

②現況調査、保存上の問題・課題

③維持管理の担い手確保 →・地域の活動団体、町内有志ボランティア

(8) 記録保存

①歴史の再整理

②目に見える、見やすい形で残す

1-2 破損、盗難に対する取り組み（文化財の危機管理）

(1) 破損、盗難に対する取り組み（文化財の危機管理）

①対象文化財等の管理状況の総括、危機事象（自然災害、火災、盗難など）の想定、保全のための課題整理

②ハザードマップの作成（文化財の所在、現状とこれらに対する危機事象の脅威を地図上に示したもの）

③課題解決方策の検討、対策実施計画の策定

④防災施設整備工事、盗難防止設備設置など各種の事業・取り組みの実施

⑤我が家のお宝申請、町登録文化財としての登録、寄託制度（歴史文化遺産銀行）などの仕組みづくり

1-3 わかりやすく価値を伝える

(1) 案内・説明（現地ガイダンス機能）の充実

〔案内サインの設置、説明板の設置、インフォメーション機能の整備、リーフレット・マップなどの作成〕

①表示手段の検討・設定（上記）

②全体的な設置計画

③設置個所の選定

④デザイン、仕様（使用素材）、表記（外国語、点字）

⑤設置費用の確保

⑥整備（設置）

⑦メンテナンス（計画的補修など維持保全計画）

(2) 案内・説明機会（わかりやすい説明、学習機会）の確保・充実

- ①実施内容の検討（対象者、レベル、題材、講師、スケジュール、場所・時間等、資料・教材）
- ②学習会、報告会などの開催
- ③専門家、説明者の派遣

(3) わかりやすい資料づくり

- ①対象層の設定（区分）⇒・子ども向け、成人向け、来訪者向け、関心の高い人向け／配布頻度、部数等
- ②作成のねらいの明確化←費用対効果の検討／媒体の検討（書籍、パンフレット、インターネットなど）
- ③各対象層への説明資料の作成（内容検討）←作成者の選定、執筆費用、印刷費用

(4) 価値の再評価、新たな価値づけ

- ①評価対象の選定
- ②評価主体（評価実施者）の選定（学者・研究者、民間専門家、愛好家（マニア）、町民、など）
- ③評価の依頼等（研究評価委託、要請、調査研究募集、アンケート調査など）
- ④分野・事項内での位置づけ（類型、特異性、先進性、希少性、歴史文化性、芸術性、技術等の水準など）
- ⑤価値のオーソライズ（評価結果の公表、学会等での発表、指定・登録等の申請）
- ⑥評価結果の公表、町内での共有

1-4 子どもたちに町の宝を伝える

(1) 学校で教える

- ①目的（めあて）の明確化：（歴史の知識習得、郷土理解、歴史観、情操、郷土愛、人間形成など）
- ②学習教科等の設定（総合的な学習、社会科・公民的分野、理科、学校行事、課外など）
- ③実施回数・時間等の設定、確保
- ④指導・学習内容の検討・設定（講義、見学、体験、調査研究など）
- ⑤実施
- ⑥実施結果の評価

(2) 教材・資料の整備

- ①学習内容
- ②教材の種類の選定（副読本、絵本、プリント、模型など）
- ③教材作成費等の確保（執筆料、監修料、印刷費など）
- ④教材の作成（執筆者、監修者の選定、依頼、執筆、デザイン・図等の作成、編集、印刷）
- ⑤教材の更新、補正

(3) 地域で伝える（体験学習）

- ①伝達・伝承の内容の設定、目的の明確化（歴史、伝承芸能、伝説、風習、郷土料理、遊び、しつけなど）
- ②実施主体の選定、依頼（地域活動団体、郷土史家、古老など）
- ③対象者、対象範囲の設定、実施方法の選定（〇〇教室・〇〇会の開催、子ども会対象、応募方式など）
- ④実施内容・プログラムの作成（伝承者＝指導者と協議して作成）
- ⑤準備→実施（実施場所、実施費用、指導者の報酬確保）
- ⑥実施結果の評価

【2. 町の宝を整備し、活用する】

2-1 情報拠点として歴史民俗資料館を活用する

(1) 歴史民俗資料館のリニューアル

〔ハード面：収蔵、展示スペース、展示方法など / ソフト面：展示企画、説明、広報など〕

①現状の問題点の洗い出し、原因・背景等の検討

②改善方策の検討

（ハード面：改装、増築、展示施設、照明など / ソフト面：開館時間、企画、周知など）

③改善計画の立案

④改善に要する費用の確保

⑤改善の実施、整備

(2) 新たな収蔵・展示手法の開拓

①現状の問題点の洗い出し、原因・背景等の検討

②収蔵・展示方法の研究、導入手法の選定

③改善計画の立案

④改善に要する費用の確保

⑤改善の実施、整備

(3) 保存を中心とした行政の取組みの推進

①文化財保護行政の業務種別・業務量（必要時間、マンパワー）の再整理（調査、研究、管理、教育など）

②保護行政に充当できるマンパワーの検討（職員、臨時雇用者など総時間、人員配置計画）

③人員補充、職員の研修・技量向上などの検討

④業務（タスク）実施計画の作成（年間目標、業務内容、実施スケジュール、要する費用など）

⑤業務の遂行

⑥業務成果の検証（次年度計画への反映）

2-2 おもてなしの拠点として廃校、公民館を活用する

(1) 西友枝体験交流センター「ゆいきらら」の活用

- ①当館に求められる役割、活用方針の検討（他の事項から要請される活動の場等としての活用など）
- ②当館において実施する活用アクティビティの想定→選定（会議、講義、実習、上映、展示、飲食など）
- ③スペース利用計画（ハード面）の作成
- ④建物の保全・改修計画（登録文化財としての構造・外観保全、内部の活用アクティビティに対応した改修）
- ⑤建物の保全・改修の実施（改修費用等の確保）
- ⑥活用アクティビティの実施計画、運営管理計画（ソフト面）の作成
- ⑦運営管理主体の確保（指定管理者制度の活用、都市とのネットワークなど→公募事務、管理運営委託）
- ⑧利用者へのPR，利用団体の募集

(2) 中央公民館支館（旧大平村中央公民館）の活用

- ①当館に求められる役割、活用方針の検討（他の事項から要請される活動の場等としての活用など）
- ②当館において実施する活用アクティビティの想定→選定（会議、講義、実習、上映、展示、飲食など）
- ③スペース利用計画（ハード面）の作成
- ④建物の保全・改修計画（登録文化財としての構造・外観保全、内部の活用アクティビティに対応した改修）
- ⑤建物の保全・改修の実施（改修費用等の確保）
- ⑥活用アクティビティの実施計画、運営管理計画（ソフト面）の作成
- ⑦運営管理主体の確保（指定管理者制度の活用、都市とのネットワークなど→公募事務、管理運営委託）
- ⑧利用者へのPR，利用団体の募集

2-3 ガイダンス施設として、道の駅、大平樂を活用する

(1) 道の駅（大ノ瀬官衙遺跡）の活用

- ①現状の利用状況（利用客、遺跡見学状況など）、問題点等の洗い出し
- ②当駅に求められる役割、活用方針の検討（他の事項から要請されるガイダンスの場としての活用など）
- ③当駅施設において必要な整備内容の検討（情報提供・ガイダンス施設の内容、案内・説明内容、など）
- ④ハード面の整備計画、ソフト面の施設運営計画の作成
- ⑤整備の実施（整備費用等の確保）
- ⑥運営管理

(2) 大平樂の活用

- ①施設保有・管理企業への活用意向の表明、依頼
- ②現状の利用状況の把握（利用客層、上毛町への関心・期待など）、問題点・課題等の洗い出し
- ③当施設に期待するものの整理、活用方針案の作成
- ④施設保有・管理企業へ期待するもの、活用方針案の提示・協議
- ⑤（同意を得たのち）活用実施計画（プログラム）の作成
- ⑥行政との協働によるプログラムの実施

【3. 地域活動団体や人材を育成し、おもてなしの心を広げる】

3-1 地域活動団体を支援する

(1) 地域活動団体の支援

- ①地域活動団体の現状把握（活動内容、構成員、活動状況、活動上の問題点・課題、意向など）
データベース化、データベースの公表、問題点・課題の整理
- ②支援の目的、行政の関わり方の検討（先導・けん引、側面・後方、協働・共催、精神的など）
精神的：認定、顕彰、公表・広報協力
- ③支援が必要な事項、態様の検討（人的、スペース、費用・資金など 派遣、提供・貸与、補助など）
- ④支援に必要なマンパワー、費用などの確保の検討（活動支援基金）
- ⑤支援の手続きの制度化（活動実施計画の提出、対象活動の審査・選定、補助・交付等の規定の整備）
- ⑥支援の実施

(2) 祭の継承活動の支援

- ①祭事・行事及び伝承の実態、継承活動の問題点等の把握
- ②個別保存継承方針の作成（できれば継承団体・組織が案を作成）
- ③行政による支援内容の検討
- ④支援に必要な費用などの確保の検討
- ⑤支援の手続きの制度化
- ⑥支援の実施

3-2 団体間の交流を促進する

(1) 団体交流促進会の支援

- ①団体交流促進会の状況把握（活動状況、活動上の問題点・課題など）
- ②行政による支援内容の検討（専門家の派遣、費用の支援など）
- ③支援に必要な費用などの確保の検討
- ④支援手続きの制度化
- ⑤支援の実施

(2) 新たな活動部会の設置

〔〇〇活動、△△活動、□□活動など〕

- ①活動団体（構成員）の新たな活動へのニーズ、意欲の把握
- ②活動領域、活動内容の検討（類似団体の活動状況の調査・研究）
- ③賛同者、部会参加者の把握
- ④部会組織化の検討
- ⑤部会の設置
- ⑥部会活動の実施

3-3 ガイドを育成する

(1) ボランティアガイドの育成、活用

- ①本町におけるボランティアガイド制度の枠組み検討（ガイドに期待するもの、役割、認定、派遣方法など）
- ②ガイド内容・水準の検討、公表
- ③ガイド希望来訪者へのPR方法、ガイド派遣方法などの検討（インターネットなどの活用）
- ④ガイド就任希望者の募集
- ⑤ガイド就任希望者の研修（育成講習、テキスト、おもてなしの態度）
- ⑥ボランティアガイド認定（基準、認定評価、位置付け）
- ⑦ガイド希望来訪者へのPR、希望の受付
- ⑧ガイド派遣事務（ガイド希望来訪者へ派遣するガイドの選出）
- ⑨実施結果の検証

3-4 生涯学習の中で活用する

(1) 学習プログラムの作成

- ①本町における生涯学習促進の中での文化財学習の位置づけ、目的などの検討
- ②既存生涯学習プログラム内での実施、もしくは、新規プログラム設定の検討（町民大学、歴史講座、まち歩き会、上毛町歴史・文化検定など）
- ③文化財学習の内容、学習プログラムの作成
- ④実施計画の作成
- ⑤文化財学習プログラムの実施
- ⑥実施結果の検証

3-5 新たな地域資源の企画、開発を奨励する

(1) 食・土産の開発支援

- ①本町における観光開発・文化財活用と食・土産の開発との関係、位置づけの明確化
- ②地域・団体等への呼びかけ、協議（アイデア出し、戦略検討など）
- ③地域・団体等による食・土産開発の支援、促進（指導、開発研究・試作、市場調査など）
- ④地域ブランド等としての認定（「上毛印」などネーミング、シンボルなどの作成、認定保証基準設定）
- ⑤地域ブランドとしてのPRの協力・支援（町発行広報紙、ホームページへの掲載など）

【4. 交流の輪を広げる】

4-1 広域圏での交流を促進する

(1) 広域圏での交流を促進する

- ①連携対象地域、連携対象資源の調査、設定
- ②連携対象地域内市町、関係団体などとの連絡・協議
- ③連携組織の結成（上下三毛郡＝環上毛連合、山国川流域圏などの名称）
- ④連携・交流の方針、実施内容などの検討、設定（情報発信、イベント時期調整、イベント開催など）
- ⑤連携・交流の実施（統一名称、ルートの設定、マップの作成、共同ポスターの作成、イベント共催など）
- ⑥連携効果、実施効果の検証

4-2 国・県及び周辺市町と連携する

(1) 資源を関連づけ、結びつける

- ①連携候補資源の抽出・選定、関係性・共通点等の検討、類型化・グループ化
- ②資源間の関連化・結合の利点などの検討（同種資源間ネットワーク・分担、異種資源間結合・複合化効果）
- ③共通テーマ、ストーリー、ブランド化ネーミングなど、方針の検討、設定
- ④効果的結合関係、結合方策、売出し方策の検討、計画策定（ネットワークルート化、セット販売など）
- ⑤計画の実施（ネットワークルートマップの公表・PR、歴史散策と山里の食、花と遺跡巡りツアーなど）

(2) 国・県及び周辺市町との人材、情報交流

- ①周辺市町の人材（担当者）、地域資源、観光情報などの収集・把握（常時収集・更新システムが必要）
- ②定期的な連絡、情報交流の仕組みの設定・確立（担当者会議、定期便の交換、資料の共有など）
- ③現状、問題・課題、解決策等の共有、勉強会の実施など、交流効果を上げる取り組みの実施
- ④協働、応援・支援の仕組みづくり
- ⑤協働、応援などの実施（イベント時の協力など）

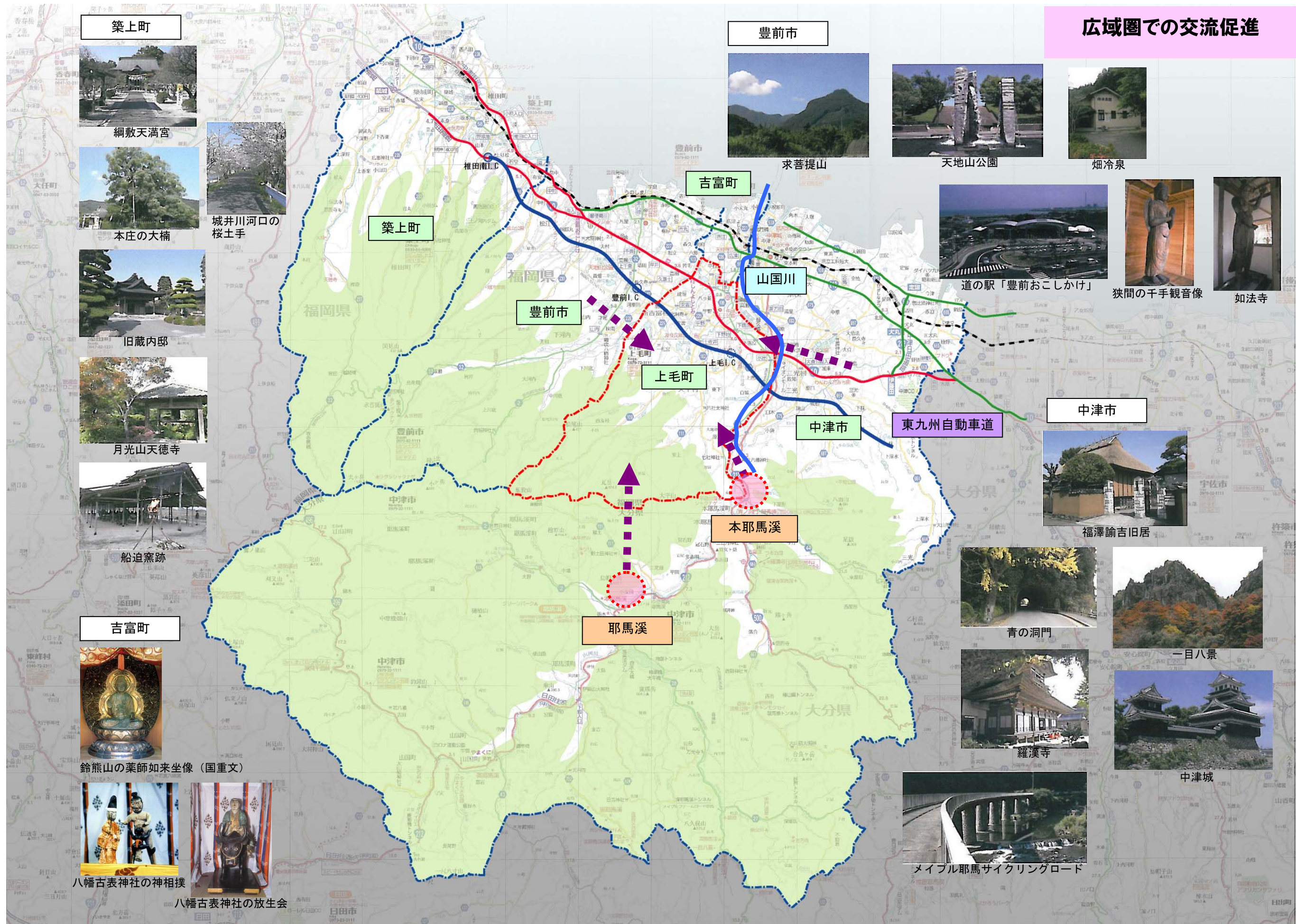


図-10 広域図の資源図

周辺市町とのイベントの連携

表-25 周辺市町のイベント一覧表

[illegible]

4-3 史跡・観光・食・土産などを横断的・複合的にアピールする

(1) 観光・食・土産のデータベース化と情報発信

- ①観光・食・土産などの資源のリストアップと特徴・PRポイントの整理
- ②リストのデータベース化（利用者が閲覧・検索などの利活用をしやすいものとして構築する必要）
- ③データベース公開・公表方法の検討・設定（町ホームページ、各種媒体の活用など）
- ④ホームページ、各種媒体への登載、発信
- ⑤データベースの定期的更新、継続的な新着情報の提供
- ⑥アクセス状況の把握と問題・課題の検討など検証、改善の実施

(2) 町の中心部と山あいの集落との連携

- ①山あいの集落の資源リストアップと特徴・PRポイントの整理
- ②リストのデータベース化（利用者が閲覧・検索などの利活用をしやすいものとして構築する必要）
- ③データベース公開・公表方法の検討・設定（町ホームページ、各種媒体の活用など）
- ④ホームページ、各種媒体への登載、発信
- ⑤データベースの定期的更新、継続的な新着情報の提供
- ⑥アクセス状況の把握と問題・課題の検討など検証、改善の実施

(3) 情報媒体の活用

- ①各種情報媒体の仕組み、伝達エリア、ターゲットの絞り込みの可・不可、利用費用など特性の把握
- ②情報提供ターゲットの設定（福岡・北九州都市圏市民、大分県北地域の高齢者、全国の愛好家など）
- ③情報提供頻度などの検討、設定
- ④効果的な情報媒体活用の戦略検討（インターネットのブログ開設、SNS、企業情報誌の利用など）
- ⑤情報媒体利用費用の確保
- ⑥情報媒体運営企業との契約、取材の要請、情報提供など
- ⑦情報コンテンツの作成
- ⑧媒体を通じた情報提供の実施（配布、掲載、掲示、放送、配信、広告）

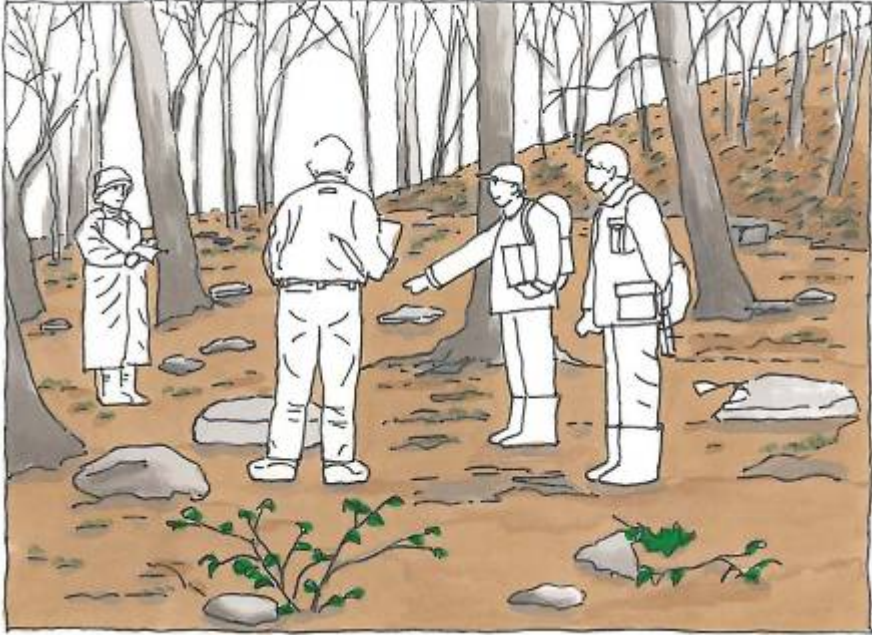

(3) 推進事業


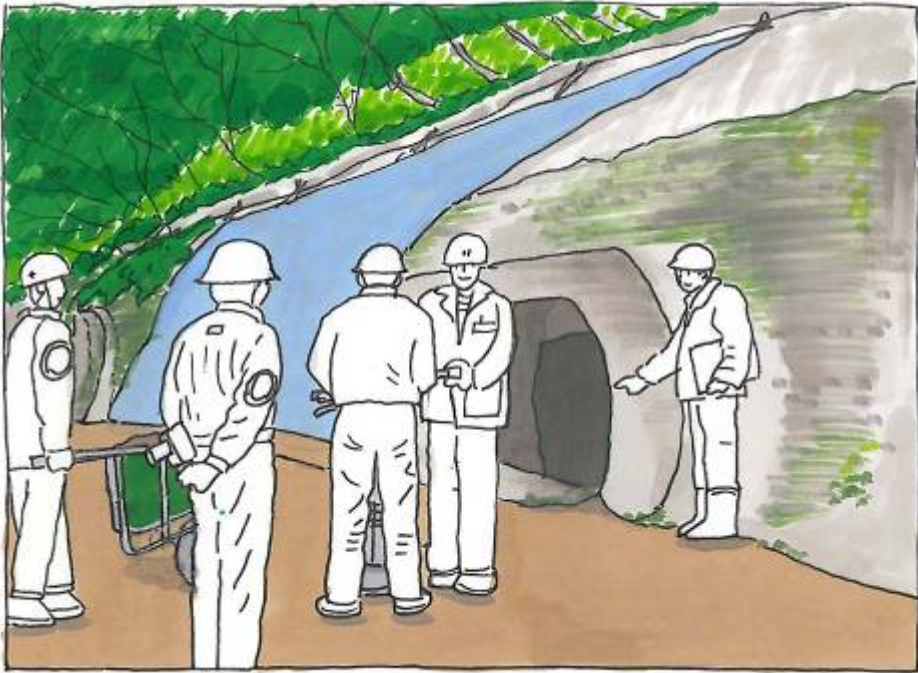
推進計画を踏まえ、基本理念に掲げたまちづくりの実現を目指し、以下に掲げる事業に取り組んでいく。目標年次として、短期は5年以内、中期は10年以内、長期は20年以内を設定する。

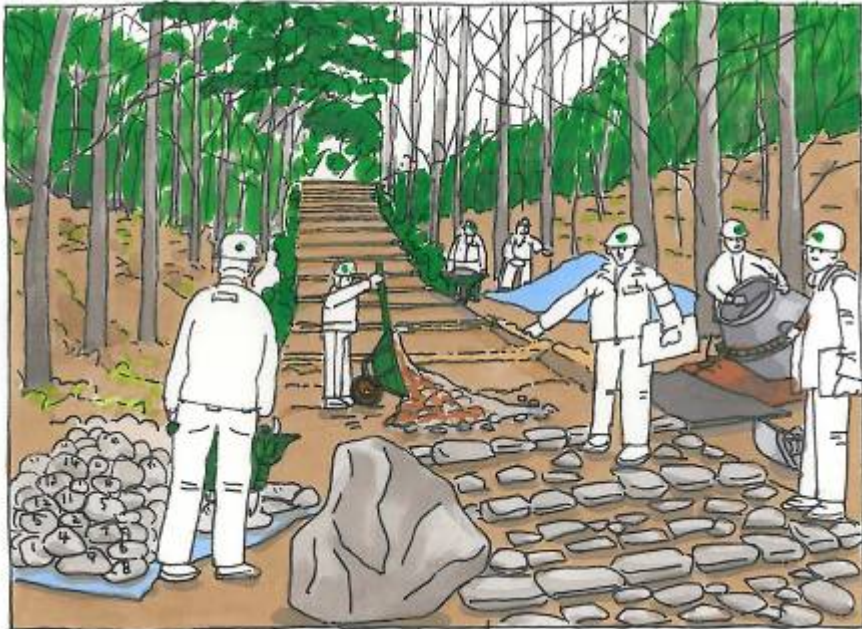
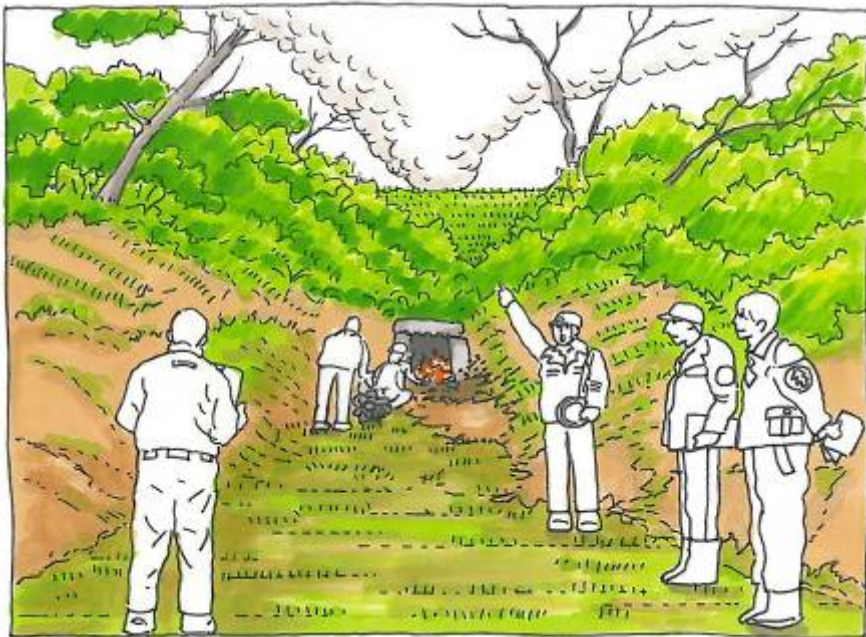
表-26 推進事業



基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を守り、継承する	短期	①文化財の分布調査	個人所有も含めた各種文化財について調査を行い、所在、状況等の把握を行う。今後の保存活用のためのデータベース作成の基礎資料とする。町と団体(上毛町文化と歴史を学ぶ会など)とが連携し、調査を行う文化財の対象を明確にし、個人所有者にも情報提供を依頼し、実施する。
		②町内開発事業の内容確認等事務手続きの確立	町内開発事業の内容等について、担当部局(産業振興課、建設課等)と文化財部局間の情報共有を行い、埋蔵文化財包蔵地での開発による文化財の消滅を防止するための事務手続きを確立する。
	中期	③町内仏像等の保存状況等調査	町が主体となり専門家の協力を得て、個人所有も含め、町内の仏像等の保存状況等の調査を行う。
		④国指定史跡友枝瓦窯跡の保存修理	町が主体となり国指定史跡友枝瓦窯跡の保存修理を行い、盗掘や破損から史跡を守る。
		⑤松尾山修験道遺跡の継続的整備	町が主体となり松尾山修験道遺跡の調査を継続的にを行い、整備活用にあたっては関連団体等との連携により適切な整備を継続的に行う。
		⑥烽火台跡の町指定史跡への指定・整備	烽火台跡を町指定史跡として指定し、保存整備するとともに地元団体と連携し、様々な活動やイベントの場として整備を行う。
	中期	⑦安養寺千手観音の指定美術品への指定・公開	地域で管理されている安養寺千手観音を町の美術品として指定し、町が管理・公開していく。
	短期	⑧文化財サインの規格統一及び継続的設置	専門家や地元団体との連携により、町全体の文化財サインの規格やデザインを統一し、文化財マップやリーフレットと一体化したものを継続的に設置していく。
		⑨松尾山修験道遺跡のパンフレット作成	松尾山修験道遺跡の継続的整備にあわせ、パンフレットを充実していく。絵本製作委員会等と連携しながら、わかりやすく、親しみやすいパンフレットを作成する。
		⑩まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」の公費による印刷	まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」を町内外にアピールし、学校教育や生涯学習の場で活用しやすくするために、公費による印刷を行う。
	長期	⑪古代山城サミットへの継続的参加・情報の収集・発信	古代山城サミットへの継続的参加を通じて、他都市との交流、情報収集・発信を積極的に行う。
町の宝を整備し、活用する	短～中期	⑫西友枝体験交流センター「ゆいきらら」での文化財に関する体験プログラムの提供	町と地元が連携し、西友枝体験交流センター「ゆいきらら」を活用しての歴史学習、演劇、コンサート、各種会議、宿泊、映画のロケなどの様々な体験プログラムを企画し、実現していく。
	短期	⑬文化財等観光情報提供システムの導入	町が主体となって情報システムを導入し、民間からの情報も取り入れながら運用していく。
地域活動団体や人材を育成し、おもてなしの心を広げる	短期	⑨松尾山修験道遺跡のパンフレット作成	松尾山修験道遺跡の継続的整備にあわせ、パンフレットを充実していく。 絵本製作委員会等と連携しながらわかりやすく、親しみやすいパンフレットを作成する。
		⑩まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」の公費による印刷	まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」を町内外にアピールし、学校教育や生涯教育の場で活用しやすくするために、公費による印刷を行う。
交流の輪を広げる	短期	⑭京築管内の文化財速報展に民俗芸能を取り上げる	町が主体となり関係市町と連携をとり、京築管内で開催されている文化財速報展に民俗芸能を取り上げ、周辺の人々に情報を発信していく。
	長期	⑮祭りなどの民俗芸能の開催日程等をNOAS FMで広報する。	京築から中津まで県境をまたいで放送が流れているNOAS FMと町や団体が連携し、祭りなどの民俗芸能情報をリアルタイムで発信していく。



町の宝を守り、継承する

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を守り、継承する	短期	①文化財の分布調査	個人所有も含めた各種文化財について調査を行い、所在、状況等の把握を行う。今後の保存活用のためのデータベース作成の基礎資料とする。町と団体(上毛町文化と歴史を学ぶ会など)とが連携し、調査を行う文化財の対象を明確にし、個人所有者にも情報提供を依頼し、実施する。
			
	年次	事業名	概要
	短期	②町内開発事業の内容確認等事務手続きの確立	町内開発事業の内容等について、担当部局(産業振興課、建設課等)と文化財部局間の情報共有を行い、埋蔵文化財包蔵地での開発による文化財の消滅を防止するための事務手続きを確立する。
			


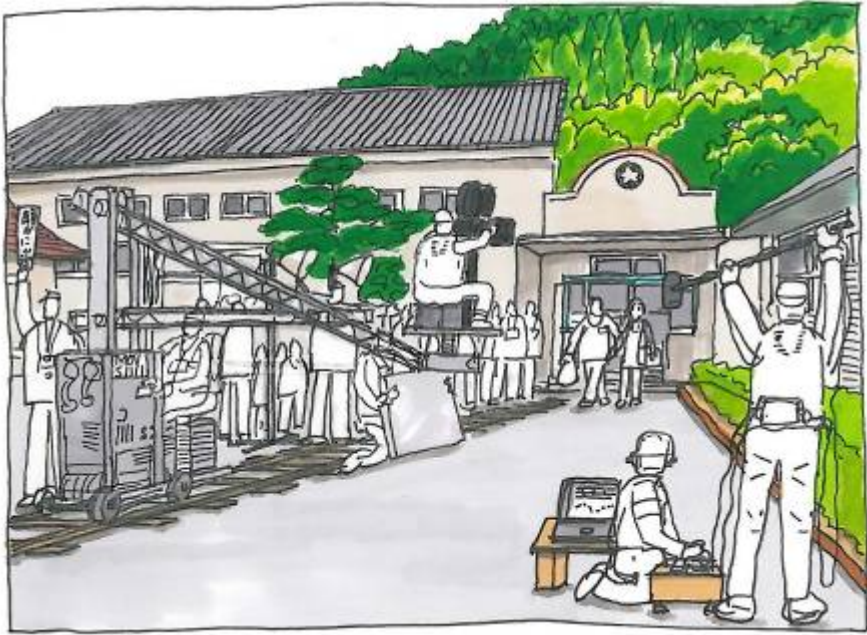
基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を守り、継承する	中期	③町内仏像等の保存状況等調査	町が主体となり専門家の協力を得て、個人所有も含め、町内の仏像等の保存状況等の調査を行う。
			
	年次	事業名	概要
	中期	④国指定史跡友枝瓦窯跡の保存修理	町が主体となり国指定史跡友枝瓦窯跡の保存修理を行い、盗掘や破損から史跡を守る。
			

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を守り、継承する	中期	⑤松尾山修験道遺跡の継続的整備	町が主体となり松尾山修験道遺跡の調査を継続的に行い、整備活用にあたっては関連団体等との連携により適切な整備を継続的に行う。
			
	中期	⑥烽火台跡の町指定史跡への指定・整備	烽火台跡を町指定史跡として指定し、保存整備するとともに地元団体と連携し、様々な活動やイベントの場として整備を行う。
			

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を守り、継承する	中期	⑦安養寺千手観音の指定美術品への指定・公開	地域で管理されている安養寺千手観音を町の美術品として指定し、町が管理・公開していく。
			
	短期	⑧文化財サインの規格統一及び継続的設置	専門家や地元団体との連携により、町全体の文化財サインの規格やデザインを統一し、文化財マップやリーフレットと一体化したものを継続的に設置していく。
			

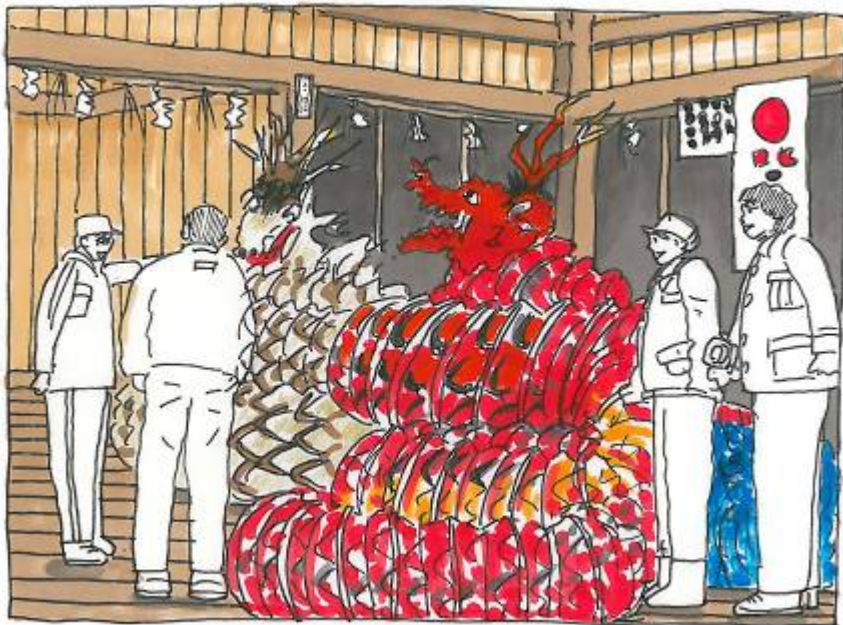

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を守り、継承する	短期	⑨松尾山修験道遺跡のパンフレット作成	松尾山修験道遺跡の継続的整備にあわせ、パンフレットを充実していく。絵本製作委員会等と連携しながら、わかりやすく、親しみやすいパンフレットを作成する。
			
	短期	⑩まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」の公費による印刷	まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」を町内外にアピールし、学校教育や生涯学習の場で活用しやすくするために、公費による印刷を行う。
			

町の宝を整備し、活用する

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を整備し、活用する	長期	⑪古代山城サミットへの継続的参加・情報の収集・発信	古代山城サミットへの継続的参加を通じて、他都市との交流、情報収集・発信を積極的に行う。
			
	短～中期	⑫西友枝体験交流センター「ゆいきらら」での文化財に関する体験プログラムの提供	町と地元が連携し、西友枝体験交流センター「ゆいきらら」を活用しての歴史学習、演劇、コンサート、各種会議、宿泊、映画のロケなどの様々な体験プログラムを企画し、実現していく。
			

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
町の宝を整備し、活用する	短期	⑬文化財等観光情報提供システムの導入	町が主体となって情報システムを導入し、民間からの情報も取り入れながら運用していく。
			

交流の輪を広げる

基本方針	推進事業		
	年次	事業名	概要
交流の輪を広げる	短期	⑭京築管内の文化財速報展に民俗芸能を取り上げる	町が主体となり関係市町と連携をとり、京築管内で開催されている文化財速報展に民俗芸能を取り上げ、周辺の人々に情報を発信していく。
			
	年次	事業名	概要
	長期	⑮祭りなどの民俗芸能の開催日程等を NOAS FM や情報誌などで広報する。	京築から中津まで県境をまたいで放送が流れている NOAS FM と町や団体が連携し、祭りなどの民俗芸能情報をリアルタイムで発信していく。
			

（４）推進計画のまとめ

表-27 推進計画

基本方針	計画の目標	個別計画（重点項目）	ねらい	施策	推進事業
1. 町の宝を守り、継承する	1-1 文化財・伝承を良好な状態で保全する	(1) 文化財の一元的な把握・管理	町の宝の整理	文化財、地域資源のデータベース作成、対外的な発信	短期 ①文化財の分布調査 中期 ②町内仏像等の保存状況等調査
		(2) 有形文化財の保存	無二の宝を残す	百留横穴墓群、吉岡烽火台跡、穴ヶ葉山古墳、有野弘法窟、天井絵馬、千手観音	中期 ③国指定史跡友枝瓦窯跡の保存修理 中期 ④松尾山修験道遺跡の継続的整備 中期 ⑤烽火台跡の町指定史跡への指定・整備
		(3) 無形文化財の継承	同上	行事、神楽、民俗芸能、ならわし、風習、言い伝え等の継承	
		(4) 埋蔵文化財の保存	開発事業による消滅を防ぐ	町内開発事業の内容確認等事務手続きの確立	短期 ⑥町内開発事業の内容確認等事務手続きの確立
		(5) 登録文化財としての登録申請	指定制度以外の遺産の保全を担保	中央公民館支館、西友枝体験交流センター「ゆいきらら」	
		(6) 土木施設・周辺景観の保全・整備	人々の営みや技術を伝える	河川、矢方池、宇島鉄道跡（駅跡地）、門前町	
		(7) 自然資源、景勝地、農村風景の保全	美しい景観を守る	棚田、滝、蛍水路（住民・団体による保全・清掃等の活動）	
		(8) 記録保存	歴史の再整理をする 目に見える、見やすい形で残す	歴史、伝承の整理 伝承の映像化、記録化と公開（販売）	
	1-2 破損、盗難に対する取り組みを行う （文化財の危機管理）	(1) 防災対策の充実	風雨・流水などによる損傷を防ぐ 火災から守る	文化財、地域資源のハザードマップの作成 防災施設工事	
		(2) 防犯対策の充実	盗掘、盗難から守る	寄託制度の周知（我が家のお宝申請⇒町登録文化財⇒歴史銀行） 盗難防止装置の設置（安養寺千手観音、日熊観音など）	中期 ⑦安養寺千手観音の美術品指定への指定・公開
	1-3 わかりやすく価値を伝える	(1) 案内・説明の充実	場所を案内する	案内サインの統一整備、配置、インフォメーション施設	短期 ⑧文化財サインの規格統一及び継続的設置
			現場で説明する	現場における説明板などの整備	
			資料で説明する	リーフレットなどの作成	短期 ⑨松尾山修験道遺跡のパンフレット作成
			（見ながら）話を聞く	まち歩き会の実施、歴史講座の開催、ボランティアガイドの派遣	
			常に発信する	町広報紙の活用	
		(2) わかりやすい資料づくり	一般の人にわかる資料の集大成	上毛町歴史・文化検定の実施、絵本による解説、映像資料	短期 ⑩まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」の公費による印刷
	1-4 子どもたちに町の宝を伝える	(3) 価値の再評価、新たな価値づけ	学術的な評価	学術的な調査・研究の推進、類似文化財保有自治体との交流	長期 ⑪古代山城サミットへの継続的参加・情報の収集・発信
			新たな視点での評価	マニアの活用、ファンの育成	
		(1) 学校で教える	郷土愛を育成する	総合的な学習、子どもたちの体験学習	
			親しみやすく、関心を持たせる	郷土史副読本、絵本での町の宝シリーズ刊行	
2. 町の宝を整備し、活用する	2-1 情報拠点として歴史民俗資料館を活用する	(1) 歴史民俗資料館のリニューアル	町の宝庫を復活、消滅を未然に防ぐ	展示のストーリーづくり、わかりやすい収蔵・展示手法の開拓	
		(2) 保存を中心とした行政の取り組みの推進	基本を大切に守り続ける	寄託制度の充実・普及、収蔵環境の充実	
	2-2 おもてなしの拠点として廃校、公民館跡を活用する	(1) 西友枝体験交流センター「ゆいきらら」の活用	活用による建造物の維持保存 地域コミュニティの場づくり 町外からの利用を呼ぶ魅力づくり	利活用プログラムの作成、実施 都市とのネットワークによる運営人材、団体の公募	短～中期 ⑫西友枝体験交流センター「ゆいきらら」での文化財に関する体験プログラムの提供
		(2) 中央公民館支館の活用			
	2-3 ガイダンス施設として、道の駅、大平楽を活用する	(1) 道の駅（大ノ瀬官衙遺跡）の活用	町外へ上毛の宝をアピール	視覚的ガイド施設（パネル、パソコン、映像）の整備 案内・ガイド、おもてなしができる人材の育成	短期 ⑬文化財等観光情報提供システムの導入
		(2) 大平楽の活用			
	3. 地域活動団体や地域の人材を育成し、おもてなしの心を広げる	3-1 地域活動団体を支援する	(1) 地域活動団体の支援	活動内容を知らせ、参加者を増やす 積極的な活動を評価し、更なる促進 弱体な活動を支え、強化する	地域活動団体のデータベース化、団体への参加の呼びかけ・広報 地域活動に対する顕彰制度の創設、「世間遺産」として認定 活動支援基金の継続、ソフト・ハード面の支援
			(2) 祭の継承活動の支援	同上	継承の仕組みづくり（人材育成＝伝承、記録）
		3-2 団体間の交流を促進する	(1) 団体交流促進会の支援	同上	地域活動団体の交流促進会の支援（専門家の派遣、経済的支援）
			(2) 新たな活動部会の設置	類似取り組み団体間の交流・連携	
		3-3 ガイドを育成する	(1) ボランティアガイドの育成、活用	来訪者への心温まる説明	ガイドブック作成委員会のメンバーの加入 短期 ⑩まちづくり認定団体が作成した「文化財ガイドブック」の公費による印刷
		3-4 生涯学習の中で活用する	(1) 学習プログラムの作成	目標を明確化する	まち歩き会の実施、歴史講座の開催、上毛町歴史・文化検定 短期 ⑨松尾山修験道遺跡のパンフレット作成
4. 交流の輪を広げる	4-1 広域圏での交流を促進する	(1) 食・土産の開発支援 伝統料理の復活・継承	地域・団体による自主的な取り組みを支援し、促進する	伝統料理の復活・継承、大学や研究機関等との連携 食生活改善推進協議会との連携	
			同一文化圏としての理解を深める	環上毛連合（旧上下三毛郡）の結成	
		(1) 国・県及び周辺市町との人材、情報交流	(2) 資源を関連づけ、結びつける	福岡・大分をつなぎ、相乗効果	周辺市町と連携し、資源（観光ルート）マップの作成、配布 流域名所めぐり、英彦山六峰（修験道）、原井の井戸（宇佐神宮関連）
			町内資源を見て回る	周辺市町や民間と連携し、ツアー、見学会を企画・開催 散策コース、サイクリングルート	
			イベント等と組み合わせ人を呼ぶ	周辺市町や民間と連携し、イベントマップ作成、イベントを開催	短期 ⑭京築管内の文化財速報展に民俗芸能を取り上げる
			楽しみの輪を広げる	上毛印のブランド化（農作物＝地元素材）、レシピ、弁当、マップ	
	4-2 国・県及び周辺市町と連携する	(2) 町の中心部と山あいの集落との連携	来訪者を山あいの集落へ呼び込む	山間あい集落の景勝地を奥座敷に 道の駅や大平楽で奥座敷のPR	
		(3) 情報媒体の活用	魅力ある情報の対外的な発信	FM放送、ミニコミ、企業広報誌などへの情報提供、チラシ配布	長期 ⑮祭りなど民俗芸能の開催日程等を NOAS FM や情報誌などで広報する。
	4-3 史跡・観光・食・土産などをアピールする	(1) 観光・食・土産のデータベース化と情報発信			
		(2) 町の中心部と山あいの集落との連携			

参考資料

(1) 時代別の文化財

① 縄文時代

およそ12,000年前になると、旧石器時代の氷河期から、徐々に気温は高くなり、日本列島はほぼ現在の形になった。旧石器時代より温暖になったとはいえ、縄文時代に入っても小刻みな気候変動は続き、その中で縄文人たちは土器を使いはじめ、自然条件に適応しながら狩猟・漁労による動物の捕獲、植物質食料採集などで食糧を求める生活を送った。定住化とともに、自然環境を利用した罠や狩猟・漁労道具の改良によって動物捕獲を効果的に行った。狩猟の対象はシカ・イノシシをはじめ、ムササビ・サルなどの哺乳類全般にわたった。

また、アク抜き技術の進歩などで植物質食糧資源を有効的に変化させていった。この過程の中で集団生活が組織化して、社会生活環境の整備が図られたと考えられる。上毛町の縄文遺跡からも動物を捕獲するための弓矢の鏃や罠として掘った落とし穴、祭祀に使用した土偶が数多く発見されている。

縄文時代は、草創期～早期(12,000年～6,300年前)・前期(6,300年～5,000年前)・中期(5,000年～4,000年前)・後期(4,000年～3,000年前頃)・晩期(3,000年～2,500年前)に大きく分けられる。

定住生活の痕跡は南九州の例から草創期まで遡ることが明らかになっているが、この時期の上毛町を含む北部九州の遺跡数は多くない。しかし、後期になると、周防灘沿岸の豊前地域では遺跡数が増加し、住居跡も150軒程度発見されるようになる。町内でも上唐原・土佐井・原井三ツ江・東友枝曾根遺跡等で集落が確認されている。中でも東友枝曾根遺跡は、30軒以上の堅穴住居跡の他、祭祀に使用した土偶・石棒が出土している。東友枝曾根の土偶は、後期末から晩期前半までの時期に製作された可能性が高いが、福岡県内で1つの遺跡から確認された土偶の数では本遺跡が最も多く、また、町内の縄文遺跡出土の土偶についても、福岡県内出土数の半数以上にあたる合計約50点も出土している。

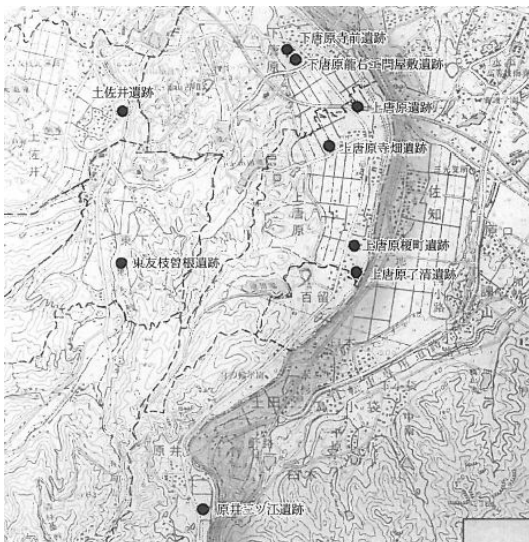
狩猟・採集を中心に食糧資源を確保していた縄文人にとって、資源の枯渇は深刻な問題であった。そのため、狩猟や漁労を始める際の安全や、ドングリなどの実がなる木や山芋などの根茎類の育つ大地に豊かな恵みを祈願するため、土偶や石棒を用いた祭祀が行われたと考えられる。土偶には抽象的な形状をしている分銅形と妊婦の姿を具象した人形の2種類がある。

土偶はこれまで発見されたもの、すべてが破損したものであることから、祭祀行為の際に意図的に壊されたと考えられている。男性器を模した石棒は生殖の願い、妊婦の破損は新たな生命誕生の願いが想像される。

弥生時代になると、大陸・朝鮮半島から稲作文化が伝わり、米づくりという新しい生活基盤を作っていく。水稻農耕の生産性の高さは日本の歴史を転換させた重要なものであったが、水稻農耕の定着にも1万年続いた縄文人の自然環境を利用する経験が役立ったと考えられる。

参考文献 今村啓爾『縄文の豊かさと限界』2002

行橋市『行橋市史』上巻2004 行橋市『行橋市史』資料編原始・古代2006



② 古墳時代

前方後円墳

古墳とは3世紀中頃から7世紀にかけて造られた王や豪族の墓である。遺体を納める空間は石材を積み重ねて造り、その石室を覆うように盛り土で墳丘を築いた。墳丘の形や大きさは被葬者の権力の象徴で、特に前方後円墳はヤマト王権と地方の首長との連合を示す。

古墳時代になると、前期の前方後円墳として能満寺3号墳、西方古墳の2基が確認されている。能満寺3号墳は、4基からなる前期古墳群の中の盟主墳である。墳丘は不明瞭な部分があるが、全長30～35mに復元することができる。

盗掘により埋葬施設は、大きく破壊されていたが、簡易な竪穴式石室であったことが推察される。副葬品として夔鳳鏡片や四獣鏡の舶載鏡が副葬品として出土している。4世紀前半に築造されたと考えられる山国川流域で最古の前方後円墳である。西方古墳は未調査であるが、前方後円墳の両端が掘削により失われているものの、全長50～60mに復元することができ、4世紀後半頃能満寺3号墳に続き築造された古墳と位置付けられている。

山国川流域の前方後円墳は、北の京都平野と南の宇佐平野との中間に位置し、この地域にも前方後円墳を造営する勢力が成長していたことがうかがわれる。ただし、京都平野や宇佐平野の古墳と比較すると規模・副葬品ともにやや劣ることは、この地域の豪族の相対的地位を示しているものと考えられる。

生産遺跡（埴輪窯）

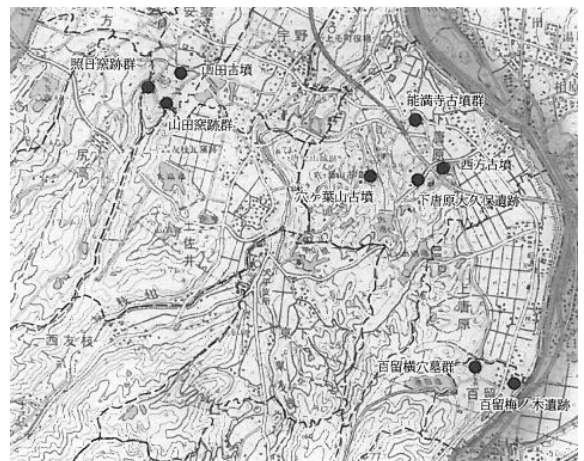
生産遺跡としては、古墳の周囲に並べる埴輪を焼成するための登窯跡が下唐原大久保遺跡で2基、百留梅ノ木遺跡で1基確認されているが、埴輪の供給先が不明である。また、古墳時代に朝鮮半島から伝来し、日本全国に普及した須恵器とよばれる器を焼くための登窯として山田・照日窯跡群が知られている。

装飾古墳

装飾古墳とは古墳内部の石室や石棺などに彩色や線刻などの方法で文様が描かれているものをいう。全国で現在600基ほどの装飾古墳が見つかっており、その殆どが福岡県と熊本県に集中している。また、周防灘沿岸の豊前地域を中心に分布する装飾古墳は、穴ヶ葉山古墳のように石組の部屋をもつ石室墳と百留横穴墓群のように崖斜面をトンネル状に掘り込み、その穴をお墓にした横穴墓がある。装飾古墳といっても施文方法には浮彫、彩色、線刻などがあるため、そのあり方は様々で、平野や河川流域ごとに独自性をもっている。特に有明海沿岸地域や周防灘沿岸の豊前地域では、6世紀後半から7世紀後半に釘状のもので、壁面を引き搔いて描く線刻系装飾古墳が現れた。石室墳では木の葉や鳥などを主に、船などを線刻している。横穴墓は入口の周りに赤色で円を描いている。石室墳や横穴墓の築造時期は6世紀後半から7世紀後半である。

町内の装飾古墳をみると石室墳では山田古墳・穴ヶ葉山古墳があり、横穴墓には百留横穴墓群がある。町指定史跡山田1号墳は丘陵の中腹に位置し、墳丘は径約10m、周溝が巡る。線刻は横穴式石室の8つの石材に線刻している（後世の追刻も考えられる）といわれるが、現在では線刻が鮮明ではない。他の線刻壁画との画題の共通性や線の太さから、木の葉を中心に線刻していると考えられている。

木の葉は穴ヶ葉山古墳にみられるような広葉樹ではなく綾杉文である。一見ほうきのように見える箇所は鳥を描いた可能性もある。穴ヶ葉山1号墳は横穴式石室内に木の葉・鳥・人物等の線刻がある。この外にも穴ヶ葉山3号墳にも線刻画が確認されている。穴ヶ葉山古墳等に描かれている「鳥」や「木の葉」を線刻する装飾古墳は、大阪府をはじめ鳥取県東部にも多く見られる。「鳥」は魂を冥界(あの世)に運ぶものとされ、常緑樹の若木は靈魂の依代となり、葬送儀礼で重要な役割を果たした。豊前市にある黒部古墳群の6号墳は、7世紀中葉の古墳であるが、石室内に、ゴンドラ風の船5隻を描いている。百留横穴墓群に代表する中津平野の横穴墓群は、入り口



周縁に円文を描くことを特徴としている。円文は古くから石棺などに浮彫されており、中央に鏡の紐と考えられるつまみを表現することや、竪穴式石室の木棺内に鏡を立て並べる風習があることから、本来は鏡を表現していたと考えられるが、図案化される中で、鏡は意識されなくなったのかもしれない。円文を描く装飾は百留横穴墓群のほかに、宇佐市にある貴船平下の裏山装飾横穴墓、観音山横穴墓群、水雲横穴墓群に見られる。

参考文献 行橋市『行橋市史』上巻 2004

行橋市『行橋市史』資料編原始・古代 2006

小郡市教育委員会・行橋市教育委員会

『平成 17 年度企画展—黄泉への入ロー』図録 2006

穴ヶ葉山古墳（国指定史跡）

山国川流域屈指の巨大石室墳である。墳丘の直径が約 30m の円墳で、周囲には馬蹄形の周溝が巡らされている。石室内部は巨大な一枚岩により造られ、全長は約 10m あり、壁面には鳥や木葉、人物などが描かれている。出土した遺物から六世紀末から七世紀初め頃に築造されたものと考えられる。古墳周辺では、ワラビ採り、花菖蒲の鑑賞、カブトムシやクワガタとりなども楽しむことができる。



山田古墳（町指定史跡）

古墳時代後期の円墳で、埋葬施設は横穴式石室である。昭和 53 年の調査により石室内部から線刻画が発見された。現在、石室内部に稲荷社が祀られており、4 月初旬には古墳周辺に植えられた桜が見頃を迎える。



百留横穴墓群（町指定史跡）

崖面に横穴を掘り込んで造られた古墳時代のお墓である。現在 49 基が確認されており、穴の数が多いことから地元では、「百穴」と呼ばれている。

当時は横穴の中に遺体を安置した後で、入口を石などの蓋で閉じて埋葬した。中央に位置する 1 号墓には、赤色顔料（ベンガラ）による同心円文の彩色がある。

お盆の 3 日間には、地域の方により先祖を弔う提灯が飾られ、幻想的な風景を見ることができる。



吉岡巨石塚（町指定史跡）

古墳時代後期に築造されたものと考えられる古墳の埋葬施設である。古墳の盛土が失われ、横穴式石室の石組みのみが残されている。

花崗岩で造られた石室の大きさは、高さ約 4 m、奥行き約 7 m、幅約 5 m ある。石室を覆っていた墳丘の形は円墳で、7 世紀頃に作られたものと考えられている。



③ 古代上毛郡の中心（奈良・平安時代）

唐原山城跡（国指定史跡）

友枝川の東岸に面した、上毛町下唐原と土佐井にまたがる丘陵では、平成11年に神籠石の列石や水門が発見され、唐原神籠石と名付けられた。列石、土塁などを繋いだ総延長は1.2キロメートルほどで、神籠石としては比較的小規模である。内部の施設などは未発見であるが、最高所からは、椎田から宇佐あたりの海岸部が望め、遠く対岸の周防国側の山並みや、背後の上毛郡、下毛郡の平野部一帯が見渡せる。

おそらく朝鮮半島の緊張に関連して、筑紫の朝倉広庭宮に進出した(661年)斉明天皇の避難ルートを確認するためにも、山国川河口近くに設ける必要性があり、これを支える集団も居ただろうと考えられる。7世紀中頃に築造されたものと考えられる山城跡。自然の山を利用した城で、北部九州で12の城が確認されており、その中の一つである。

垂水廃寺

垂水廃寺は7世紀末頃に創建された古代寺院で、伽藍配置などは未だ分かっていないが、帰化系氏族が建立したと考えられ、6～7世紀に須恵器や瓦を焼いていた山田窯跡や国指定史跡友枝窯跡などで焼かれた新羅系瓦が大半であるが、一部百済系の瓦も確認されている。

友枝瓦窯跡（国指定史跡）

奈良時代に現在の町立南吉富小学校付近に建立されていた垂水廃寺へ瓦を供給するために造られた地下式の有階有段登窯。内部には瓦を置くため、階段状の段が17段設置され、最上部に煙出しの穴が二つ開けられている。朝鮮半島系の新羅系や百済系の瓦が出土している。



大ノ瀬官衙遺跡（国指定史跡）

奈良時代の律令体制では、現在のみやこ町に国府、国分寺が設置され、上毛郡では大字大ノ瀬の大ノ瀬官衙遺跡に豊前国上毛郡衙の政庁が設置され、郡内の政治・行政の中心となっていた。

遺跡としての保存状態が良いことから、建物が配置された様子が分かり、具体的な構造を知ることができ、律令期の地方官衙の一形態を示す貴重な遺跡である。

内郭は四面庇付建物を正殿とし、その東に桁行の長い南北棟建物を脇殿として配するL字型の配置をとる。また、柵列によりこれらの建物を囲み、正殿正面には四脚門を有する。そしてさらにもう一重外側に、一辺150mを測る外郭を形成する柵列跡等も見つかっている。

郡衙設置にも当時の豪族が大きく関与していたであろうし、垂水廃寺を建立した豪族であった可能性は高いと考えられる。中津市長寿寺遺跡に設置された下毛郡衙と中津市相原廃寺の関係も同様のもの。

古代の官道

大ノ瀬官衙遺跡の南東700mの場所からは古代の官道跡も発見されている。大宰府と国府を繋ぐ官道（駅路）のうち、豊前豊後ルートは豊津町の豊前国府から築上町越路、福岡、豊前市松江、荒堀、上毛郡衙、垂水廃寺、下毛郡衙、勅使道を経て、宇佐に向かうコースとなる幅6m規模の直線道路であったことが、各地での発掘調査で発見された路床面や側溝を繋いで復元が可能になっている。



④ 中世の山城

中世の城郭は戦国時代以降に築かれた中津城のように大規模な石垣や天守閣をもつ城ではなく、一般的に山の地形を利用した山城や素掘りの堀や土塁などを巡らした館のようなスタイルが一般的であった。

中世の城郭はその役割から、本城、戦略的城郭と戦術的城郭に分けられる。本城は守護職級の持つ城郭で、豊前国では天正以降に馬ヶ岳城(行橋市)・中津城(中津市)、小倉城(北九州市)がこの機能を果たした大規模なものである。

戦略的城郭は在地領主の持つ城郭であり、戦術的城郭は戦闘状況に応じて造られ概して小規模であり、戦闘の勝ち負けに関係なく破棄されることもある。戦術的城郭は端城、出城、半城、切寄などと呼ばれている城で、数としてこの種の山城が最も多く分布している。

豊前においても天正16年(1588)頃から豊臣政権下の在地勢力の武装解除の影響を受け、在地の山城は激減し、本城や戦略的山城が残り、政治・行政的領域と武士や商人なども含めた居住区域が整備された城が造られ、小倉城や中津城などの巨大な城郭へと変化する。さらに家臣達に預け維持していた戦略的城郭も元和元年(1615)には一国一城令により破棄された。

中世の町内域には多くの城が築かれていた。残念ながら後世の開発により当時の原型を留めない城や位置を断定できない城もあるが、雁股城や内蔵寺城のように現在でも実際に赴くことで戦国時代の気分を体感できる山城も多くある。

参考文献 行橋市『行橋市史』中巻 2006

雁股城跡

福岡県上毛町と豊前市、大分県中津市との県境にまたがる雁股山(807m)の西峯に位置している。主郭は最高部にあり東西20m弱、南北45m程の平地で、周辺には巨石が石塁のように立ちはだかっている。主郭の北は東西に細長い曲輪が階段状に続いている。一方、主郭を10m程下った南西斜面には鉄平石を積み上げた長さ4m程の石塁が残っている。

戦国時代に中津市耶馬溪町津民の長岩城主野仲兵庫頭鎮兼の出城として、友枝隼人佐が城主となり城を守っていた。



松尾山の歴史

修験道場としては現在の豊前市湯(猪)迫谷から開けはじめ、隆盛を極めたのは真言修験道や天台修験道が確立する時期と時を同じくする平安時代末頃で、二十余りの坊があったと推定されている。

室町時代には松会も盛大なものとなり、延徳・明応年間(1489～1492)には松尾山十三末寺が決定され、八面山や檜原山の山伏達と共に峰入りを行うようになった。室町時代の後半から戦国時代にかけては、戦乱の世を反映し、幾度となく堂宇が焼かれ、次第に山の勢いも衰えていく。しかし戦国末期の黒田氏がこの地方を治めるようになると、松尾山は次第に復興へと向かう。後の細川氏、小笠原氏からは厚い庇護を受け、その祈願所となっている。

この状況は江戸時代末まで続くが、明治時代に出された神仏判然令や修験道禁止令により修験道が禁止されてからは、寺院としての姿はなくなり、神社として残るようになった。

護摩壇（県指定有形民俗文化財）

天台宗系修験道場であった松尾山医王寺に関連するもので、文化2（1805）年に造られたもの。

壇は上・中・下の三段で構成されている。中・下段は安山岩の自然石を組み、上段は扇形に加工した八個の花崗岩を三重の円形に組み合わせている。中央には一辺 30cm の方形な炉を設け「護摩壇藤ノ坊」と刻まれた宝珠付の蓋石が乗せられている。

護摩壇は通常屋内に設けられているが、松尾山のものは屋外に設置されていることから、外護摩とよばれている。



岩屋薬師堂

東上の岩屋集落西側の山腹に薬師如来立像（町指定美術工芸品）を本尊とする岩屋薬師堂がある。付近に板碑・五輪塔が多くあり、崖面の窪みにお堂がつくられていることから、松尾山修験道ともかかわりがあると考えられている。



有野弘法窟（町指定史跡）

弘法大師が修行で諸国を巡っていた折に立ち寄ったと伝えられる霊地である。弘法大師が山国川の対岸から窟に向かって投げた筆が壁面に「春蛇秋蚓」と書いたと伝えられている。洞窟は松尾山修験道と関わりのある修験窟であり、江戸時代には四国三十三ヶ所、八十八ヶ所の札所として巡礼者が数多く訪れた。



土佐井磨崖仏

鎌倉時代末から室町時代頃の作とみられる菩薩形をした高さ40cm 前後の像が彫られている。永年の風化により表面が剥落し、現在確認することができるものは数体程である。磨崖仏周辺には梵字が彫られた大石があることや、崖面西の尾根上は山伏達の峯入りコースとなっており、経筒が発見された経塚山遺跡があることから、松尾山修験道に関連する遺跡であると考えられている。



⑥ 中世～近世の寺院・神社

1) 寺院

覚円寺

開山時は木楽寺と称する禅寺であったが、永正 12(1515)年に東光山覚円寺と寺号を改め、浄土真宗本願寺派の寺院になった。本堂は弘化 5(1848)年に日田大山の棟梁である矢野寿平らによって改築された。

輪藏(覚円寺蔵) 県指定有形民俗文化財

英彦山六峰の一つ、松尾山医王寺にあった経典を納めるための八角形をした回転式の輪藏が所蔵されている。かつては内部に経典を納め、下部には護符が貼られていた。明治時代初めの廃仏毀釈の際、山を下ろされ覚円寺に納められた。

木造薬師如来坐像(覚円寺蔵) 県指定有形民俗文化財

英彦山六峰のうちの一つであった松尾山医王寺の本尊。慶長 7(1602)年に大講堂の落慶に際して開眼された。輪藏とともに、明治時代初めの廃仏毀釈の際、山を下ろされ覚円寺に納められた。

日熊観音 〔西吉富〕

鎌倉時代に日熊小次郎直久が日熊城主になった際に、日熊一族の守り観音として建立したと伝えられる。内部には、十一面観音坐像が収められており、現在も周辺地区の人々の守護観音として大切にされている。

岩木観音堂 〔南吉富〕

松尾山旧記集には「天台宗松尾山医王寺の山峯宿付で六番宇野村岩木宿有り、観世音、勤行あり」と記されている。

本尊は観音菩薩立像で、豊前三十三観音の一つ。

岩屋薬師堂 〔友枝〕

東上の岩屋集落西側の山腹に薬師如来立像を本尊とする岩屋薬師堂がある。室町時代(約 600 年前)頃からこの場所にお堂があったと伝えられている。

昔は、堂前の広場で奉納相撲を行っていた。現在は、田植え後の皆作法要や盆供養が行われている。



2) 神社

八坂神社(垂水) 〔南吉富〕

大字垂水の地域に疫病が流行した際、厄病除けの神として牛頭天王を勧進した。本殿の奥行きを感じさせる入口門、廊下等の施設配置。

貴船神社(宇野) 〔南吉富〕

奥行き感のある参道沿いの樹木が荘厳な神社。成恒神楽が奉納される。

貴船神社(土佐井) 〔友枝〕

クスノキの大木があり、その下には昔から涸れることのない霊泉が湧き出ている。

そこには、水神様が祀られていて、この霊泉が「土佐井」の語源であるといわれている。

貴船神社(下唐原) 〔唐原〕

毎年 11 月最後の日曜日には、唐原神楽講により、神楽が奉納されている。

六社神社・天満宮 (下唐原) 〔唐原〕

菅原道真公に関係する縁起が伝えられている。なぎの木がある。

有野大歳神社(原井) 〔唐原〕

町内最古の本殿。

八社神社(東上) 〔友枝〕

境内には花崗岩の巨石がみられ、原始宗教の様子を残している。



⑦ 近世～近代の歴史遺産

1) 烽火台跡

○雄熊山烽火台跡

雄熊山の山頂に築かれた烽火台の焚口部と考えられる石組みが見られる。これは文化6(1809)年に五代目中津藩主奥平昌高が領内三箇所にしたうちの一つである。



2) 農業土木遺産

○矢方池

矢方池の周辺地域は、しばしば旱害に見舞われる地域であったことから、明治11年に庄屋高橋庄蔵翁が矢方池の築造を提唱した。

しかし、関係する村が28村というあまりにも壮大な事業であったため、計画は一向に進まなかったが、同翁の己の身を顧みない熱意により、明治21年着工・同33年竣工の大工事が実現した。

同翁は、志半ばの明治24年「ああ矢方池」の言葉を残し、この世を去った。その後、同じ志を抱く矢幡小太郎氏が同翁の遺志を引き継ぎ、立派に工事を完成させ今日に至る。



○大ノ瀬池

雄熊・日熊両山の間にあり、池の大部分は大ノ瀬の地域に属するから大ノ瀬池という（通称大池）。本町の大字吉岡や中村、吉富町内では別府・楡生・鈴熊・土屋・直江・今吉・和井田の9地区約110haの水田を養っている。

中村組元大庄屋の記録によれば、寛文元(1661)年小笠原長次侯、大ノ瀬池を築く計画を立て、大工内海作兵衛を棟梁とし、当中村・別府二ヶ村の庄屋を勤めていた前田治右衛門（中村組大庄屋の祖先）をもって普請掛とした。

この池には立樋三箇所あり、西樋・中樋・本樋がそれぞれ樋懸りの地域と水引時間数が決められている。

また、藩政時代は池の北西部を鴨猟場として利用し、人工的に追い込み場として石組みの出島（半島）を作り鴨猟をした跡がある。

○蕨尾井堰

正徳2(1712)年に小笠原長円侯の時に計画されたが、藩財政窮乏のため着工されず、享保14(1729)年奥平昌成侯の時に再び計画され、翌年工事に取り掛かり同16(1731)年に完成した。

3) 近代化土木遺産

○宇島鉄道

宇島鉄道は、豊前市の日豊本線宇島駅から分岐し、大分県との県境付近の耶馬溪駅有野までを結ぶ軽便鉄道路線である。

○路線距離：宇島～耶馬溪間 17.7km 軌間：762mm

○最急勾配：16.7‰（パーミル。水平距離 1000m 当たり何mの勾配）

耶馬溪観光の客を見込んで、前年開業した耶馬溪鉄道(後に大分交通耶馬溪線となる)と争う形で敷設されたが、大分県の県境付近までしか伸ばせず、営業成績も低迷したため廃線となった、終着の耶馬溪駅は、県境の山国川を挟んで耶馬溪鉄道とかなり近接した位置にあり、同線の洞門駅までの延伸も検討されていたが、実現しなかった。先述した耶馬溪鉄道は、大正13年全線開通・昭和50年全線廃止したが、この鉄道により、津民から豊前地域への峠越えもなくなった。耶馬溪鉄道が対岸の大分県側にはすでにあったことと、国鉄との連絡を考慮して耶馬溪鉄道が 762 ミリから1067 ミリに改軌済みであったことを考えれば、仮に宇島鉄道が大分県までの延長を果たしていても、勝敗は自ずと明らかであったと思われる。

●旅客列車本数（1932 年 12 月 6 日改正当時）

宇島～友枝間 2 往復、宇島～耶馬溪間 3 往復

所要時間：全線 1 時間 2 分～ 6 分

なお、特等車と並等車が存在した。

●車両

機関車(総重量 25 トン) 3 台、二等客車 2 両(定員 24 人)、三等客車 4 両(240 人)、貨車 24 両が在籍していた。

●沿革

1911 年(明治 44 年) 9 月 30 日	宇島～耶馬溪間の軽便鉄道敷設認可が下りる
1912 年(明治 45 年) 3 月 27 日	宇島鉄道株式会社設立(資本金 200,000 円、発行株数 4,000 株)
1914 年(大正 3 年) 1 月 21 日	宇島～耶馬溪間開業(建設費 368,120 円)
1914 年(大正 3 年) 10 月 16 日	中唐原駅、百留駅開業
1929 年(昭和 4 年) 9 月 15 日	塔田駅開業
1931 年(昭和 6 年) 8 月	八屋～友枝間の乗合自動車営業を開始
1934 年(昭和 9 年) 12 月 1 日	下唐原～耶馬溪間廃止
1936 年(昭和 11 年) 8 月 1 日	全線廃止 宇島自動車運輸に改称、 宇島駅～友枝・宇島駅～上唐原間の乗合自動車営業に切り替わる
1942 年(昭和 17 年) 7 月	乗合自動車営業を停止

●駅一覧

宇島駅－千束駅－塔田駅－黒土駅－広瀬橋駅－安雲駅－光林寺(臨時)駅－友枝駅－下唐原駅－中唐原駅－上唐原駅－百留駅－原井駅－耶馬溪駅

●接続路線 宇島駅（日豊本線）

4) その他の遺産

○赤穂義士の遺品

礒貝十郎左衛門正久の末裔、9代目の礒貝良洋氏宅家系図や代々引き継がれて来た貴重な遺品などがある。12月の討ち入りの頃に赤穂義士に関する様々なお話、遺品などの公開がある。

2009年2月4日には、「上毛町文化と歴史を学ぶ会」主催の講演会が開催され、『赤穂義士礒貝十郎左衛門正久』という演題で話があった。

○中央公民館支館

昭和4(1929)年に旧友枝村公会堂として建設された。昭和30(1955)年の町村合併による大平村発足にあたり中央公民館となった。平成17(2005)年の上毛町発足により中央公民館支館となった。

旧大平村中央公民館、21年度の「地域づくり活動事業」の発表会などに利用されている。

今後の有効活用のあり方が課題となっている。



○旧西友枝小学校

平成22年3月に閉校。136年の歴史に幕を閉じた。木造平屋建の校舎。

西友枝体験交流センター「ゆいきらら」として活用が決定。平成24年4月オープン。



(2) 上毛風土記 記事

町の広報誌「広報こうげ」に、町の歴史や民俗を紹介する「上毛の風土記」を連載している。
平成 21 年度以降の記事のタイトルを以下に示す。

表-28 上毛風土記 記事タイトル

回	広報誌	タイトル	内 容	地区	時代
38	H21. 4	魔除けの色		有野	古墳～中世
39	H21. 5	寛永通宝	松尾山で多数	松尾山	江戸
40	H21. 6	自然への祈り	種蒔きの行事、土偶	東友枝	
41	H21. 7	お地藏さま		垂水	
42	H21. 8	百留横穴墓出土遺物中間報告①	勾玉		
43	H21. 9	雄熊山の烽火台			
44	H21. 10	二つの成恒	地名（中津市三光）		中世
45	H21. 11	百留横穴墓出土遺物中間報告②	棗玉（山陰か畿内で製作）		古墳
46	H21. 12	秋祭り			
47	H22. 1	唐原と多布原（とうばる）	地名	唐原	古代
48	H22. 2	京築速報展 2009	勾玉（行橋：墨書土器、硯）		古墳・中世
49	H22. 3	上毛の文化人 曾木墨莊		緒方	江戸
50	H22. 4	矢方の毘沙門天	矢方毘沙門堂、松尾山十三		
51	H22. 5	松尾山修験道遺跡の散策マップを作製中！			
52	H22. 6	緒方古墳群の発掘調査			古墳・近世
53	H22. 7	牛頭天王公園	八坂神社、とべら祭	垂水	弥生・中世
54	H22. 8	蕨尾井堰		唐原	江戸
55	H22. 8	高速道路の現場からⅠ	祭祀土器		
56	H22. 10	「上三毛」と「観世音寺」			古代
57	H22. 11	お不動さま	矢方毘沙門堂		
58	H22. 12	山伏が食べたもの			
59	H23. 1	初詣			
60	H23. 2	上毛町の縄文時代			
61	H23. 3	地藏信仰と修験道			
62	H23. 4	二つの耳環のなぞ	百留横穴墓		
63	H23. 5	空から見た上毛	昭和 40 年代		
64	H23. 6	お宇佐さんの井戸			
65	H23. 7	追揚ヶ城		東下	戦国
66	H23. 8	力石	東上八社神社・土俵	東上	
67	H23. 9	高速道路の現場からⅡ			
68	H23. 10	石匙（松尾山発掘調査）			縄文
69	H23. 11	荒神さん			
70	H23. 12	高速道路の現場からⅢ			
71	H24. 1	バクチの木	垂水地区に自生		
72	H24. 2	庚申塔			
73	H24. 3	神仏判然政策と廃仏毀釈			

(3) 委員会開催状況

(1) 第1回策定委員会(平成22年度)

委員の方への委嘱状交付。

南吉富地区を中心に視察。

吉岡巨石塚、烽火台の跡、八坂神社などを視察。



南吉富地区視察



（２）第２回策定委員会：友枝地区（平成 22 年度）

友枝地区を中心に視察。

岩屋の滝、さくら公園、岩屋薬師堂、友枝川や東友枝川のほたるの里、おとろしの滝、貴船神社（大入）とその途中にある棚田、松尾山の三社神社と松尾の棚田、貴船神社（土佐井）などを視察。



(3) 第3回策定委員会：唐原地区(平成22年度)

土佐井の磨崖仏と梵字大石、友枝瓦窯跡、唐原山城跡、穴ヶ葉山古墳、大平樂、大歳神社、弘法窟などを視察。



(4) 第4回策定委員会：西吉富地区(平成22年度)

大ノ瀬官衙遺跡、日熊観音、吉富神社、覚円寺、矢方池、東上八社神社、上毛町歴史民俗資料館などを視察。



(5) 第1回策定委員会(平成23年度)

(6) 第2回策定委員会(平成23年度)



午前の部



午後の部(町民との意見交換)

(7) 第3回策定委員会(平成23年度)



午前の部



午後の部(町民との意見交換)

(8) 第4回策定委員会(平成23年度)



午前の部



午後の部(町民との意見交換)

